

SOCER TOCHIGI COMMUNICATION MAGAZINE

SOCER TOCHIGI

(公社) 栃木県サッカー協会事務局

〒320-0857 宇都宮市鶴田2-2-10 鈴運メンテック(株)ビル2F

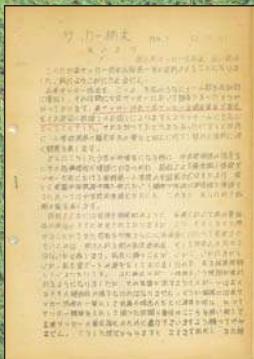
TEL 028-688-8411 / FAX 028-688-8400

URL <http://www.tfa.or.jp/>



vol.100

2022年3月22日発行



<第1号>



<第10号>



<第20号>



<第30号>



<第40号>



<第50号>



<第60号>



<第70号>



<第80号>



<第90号>

「SOCER TOCHIGI」

祝!! 100号発行

FAIR PLAY PLEASE



フェアプレイを心がけましょう



contents



事務局より

星野会長あいさつ	3
「サッカー栃木」100号に想う	4
2021年度公益社団法人栃木県サッカー協会 各種表彰受賞者	5
ミッションファイル	6
2022年度アクションプラン	7
本県開催 第43回皇后杯全日本サッカー選手権大会	17
栃木サッカークラブ	
栃木SC監督挨拶	18
第1種委員会・社会人連盟	
広報誌100号記念に寄せて	18
2022シーズンに向けて（栃木シティフットボールクラブ）	19
集う場所がある意義と、非日常の創出（ヴェルフェ矢板）	20
心機一転（作新学院大学サッカーチーム）	20
第2種委員会・高校連盟	
高校連盟より	21
令和3年度 第100回全国高等学校サッカー選手権大会 栃木大会結果	23
高円宮杯U-18サッカーリーグ2021 ユースリーグ	24
令和3年度 全国高等学校定期制通信制体育大会 第31回サッカー大会に出場して	27
高校女子サッカー2021年度シーズンを終えて	28
第4種・少年連盟	
第50回U-10栃木県少年サッカー選手権大会	29
JFA第45回全日本U-12サッカー選手権大会栃木県大会	30
第39回U-11栃木県少年サッカー大会	31
クラブユース	
『広報誌100号に寄せて』	32
2021年度 高円宮杯栃木ユース（U-15）サッカーリーグを優勝で終えて	33
栃木シティフットボールクラブアカデミー	33
栃木クラブユースを支えて	35
シニア委員会・連盟	
JFA第20回全日本O-50サッカー大会 栃木県開催	35
JFA第22回全日本O-60サッカー大会 関東地区予選会 試合結果	38
JFA第16回全日本O-70サッカー大会 関東地区予選会 大会結果	39
フットサル委員会・連盟	
フットサル大会にも不可欠 マッチコミッショナー奮闘	40
新型コロナ禍の2022シーズン公式戦全日程を終了	40
女子委員会・連盟	
関東女子サッカーリーグ 河内SCジュベニール復帰	41
国際医療福祉大院生・松本さん 本県2人目の女性A級指導者に	41
グラスルーツ	
グラスルーツ委員会より	42
2021年度後期キッズ普及関連活動	43
2021年度後期女子普及関連活動	44
技術委員会	
第15回栃木県フットボールカンファレンス【オンライン】を開催して	46
栃木県中体連女子育成強化練習会を開催して～栃木県中体連サッカー専門部の取り組み～	48
2021年JFA公認ゴールキーパーレベル1コーチ指導者講習会栃木FAコースの開催について	50
栃木県ゴールキーパープロジェクトについて	51
審判委員会	
サッカー競技規則（Laws of the Game）の不思議	52
栃木県協会に移籍して	53
第55回関東社会人サッカー大会	54
イントレーに参加して	54
サッカー2級審判インストラクターに昇格して	55
2級審判員として更なるステージへ	56
2級審判員になつて	57
サッカー2級審判員に合格して	58
3級審判インストラクターを取得して	58
福島Jヴィレッジで全国大会開催～第54回全国高等専門学校サッカー選手権大会	59
医事委員会	
サッカー選手に多い「Jones骨折（第5中足骨疲労骨折）」の話し	63
広報誌「SOCER TOCHIGI」発行の歴史	
森山真弓先生を偲んで（最高顧問 石崎忠利）	64
賛助会員・協賛	
2021年度賛助会員ご芳名	65
	66

あ い さ つ

公益社団法人栃木県サッカー協会
会長 星野 務



栃木県サッカー協会の広報誌「SOCCE TOCHIGI」が発刊100号を迎えることになりました。第1号は前回の栃木国体（栃木葉国体）の開催3年前の1977年11月に、「本県におけるサッカー競技の発展を願い、サッカー関係者の共通理解を図ること」を目的として発行されました。

当時は手書きの原稿をそのまま印刷したものでしたが、森山欽司会長や大関達雄理事の記事にはサッカー競技を通して協調性や責任感を育成することや、高度な個人技の習得などの内容となっており、本県サッカーの充実・発展に対する熱い思いが伝わってきます。以来、年に2回のペースで発行し100号を迎えることになりました。

他都道府県FAの機関紙では大会の記録を中心に構成した内容が多い中で「SOCCE TOCHIGI」では、関東・全国レベルの大会に参加したチーム関係者、講習会に参加した指導者や審判員、さらに各種委員会の活動報告など本県のサッカーファミリーにとつて読み応えのある内容になっているのではないかと思います。

これもひとえに、これまで発行にご尽力いただいた編集委員会の歴代の委員長や委員の皆様、また原稿をお寄せいただいた皆様方のおかげであり改めて感謝とお礼を申し上げます。

これからも、広報誌の活用を通して、本協会の理念である「栃木県においてサッカーの普及発展、競技力の向上に努め、サッカーを通じて栃木県民の豊かなスポーツ文化の振興及び心身の健全な発達に寄与する。」ことを目指していきたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

「サッカー栃木」100号に想う

元・記録広報委員長
奥澤 浩



「サッカー栃木」が今回で100号を迎える。私も途中まで関わって來たので、祝辞と共に思いつくままに述べてみたい。

創刊号は昭和52年（1977年）11月21日であった。森山欽司・県サッカー協会長のあいさつ文が載っている。今では信じられないだろうが、2号までは手書きである。パソコンどころかワープロも普及していなかった。今見ると小学生の作文か、と笑われそうだが。

初代の編集長は、中島一輔・記録広報委員長が務めていた。1人で記事を集め、感じた事を書いていた。発行日は特に決まっておらず、記事が集れば発行すると言う具合だった。県協会や県サッカー界に対して、苦言も多かったと記憶している。サイズは当時主流のB5版が56号まで続いた。気が付けば、いつの間にか私も編集委員になっていた。その後も、ずっとサポート役ではあったが。

平成3年（1991年）3月、中島委員長が退くに当って、4月から私が記録広報委員長を引き継いだ。平成3年10月の43号から、平成17年（2005年）8月の71号までの14年間に28回を担当した。この一時期は「栃木レフェリーニュース」も発行していた。サッカー栃木を年3回、栃木レフェリーニュースを年3回発行していたので、2か月に1回はどちらかを発行していた事になる。やはり人材不足は否めず、ほとんど1人で編集・発行をしていた。

原稿は、まだ手書きであった。それを印刷所へ渡し、印刷（グラ刷り）してから校正する手順だった。有名作家の原稿ではないが癖字で読めなくて、本人に確認しながら原稿を清書した事が何度もあった。現在のパソコン入力では考えられないだろうが。自宅でやるだけでは時間が足りず、会社で仕事の合間にもやっていた。

原稿を依頼したり催促して、ケンカになりそうになった事も時々あった。故・吉江澈也氏が宇都宮高校に勤務していた時には、触発寸前までになった。一番困ったのは、校正用の原稿が会社のファックスに届く事だった。その頃、我が家にはファックスが無かった。会社からは何度も白い目で見られた。急がない時は、郵送でやり取りをしていたのだが。

その間、平成5年（1993年）には栃木インターハイがあり、県協会40周年誌、50周年誌にも携わったが、その際には広報誌の「サッカー栃木」が大いに役立った。各連盟から広報委員が選出されて、協力してくれる様になったのは、58号の頃だったと思う。

平成17年（2005年）私が退くに当って、姿川中学校の後輩、川端宏之君が引き継いだ。しかし、諸般の事情があり4年間で任期は終った。急な事態で困惑したが、78・79号は県協会主導で何とか乗り切った。

平成24年（2012年）3月の80号からは、村上富士夫氏が記録広報委員長となり、本業の傍ら編集長を兼務する形となった。ここからは年2回発行、カラーA4版の定期発行となった。平成24年だから、もう10年間は続いている事になる。

年2回の発行となると記録的な要素が強く、速効性では物足りない部分もある。県外の広報誌を見ると、PDFに移行している所もかなりある。しかし、印刷物に残しておけば「いつでも誰でも」見る事が出来る、と言うメリットもある。100号を機会に、本県も「今後どの様な方向に進むのか」を、検討する時期に来ているのかも知れない。

最後に一つ、触れない訳にはいかない。令和3年（2021年）10月14日に前・県サッカー協会長の森山眞弓氏が93歳で逝去された。私はその前の森山欽司・会長の時から活動していたが。何時だったか山田昇・事務局長、故国井克夫・理事長と一緒に協会行事の打合せに行って、戸祭の自宅で昼食をご馳走になった。また県社会人リーグの表彰式で、特別表彰を受けた時には、並んで写真に納まって頂いた。文部大臣を務めていた時は、審判手帳の協会長名の所に直筆で署名を貰った。数多くはないが良い思い出である。謹んで、ご冥福をお祈り申し上げます。合掌。栃木県サッカー協会の益々の発展を祈念してペンを置く。

（2022年1月1日・記）

2021年度 公益社団法人栃木県サッカー協会 各種表彰受賞者

1. 2021年度 (第49回) 太郎賞受賞者
 4種 伊東洋瑛 太郎賞受賞者
 落合大樹 埼玉U-12
 秋元敬太 MORANGO栃木フットボールクラブU12
 秦野颯太 ヴェルフェ矢板U-12
 花山貴和 三島FC
 藤井和 三島FC
 関根翠花 JFCファイターズ
 三島藤穂 FCグランディール宇都宮

3種 熊谷匡祐 栃木サッカーラブ U-15
 小竹知恵 フログレッソ佐野F.C.U-15
 加藤直輝 旗沼市立栗野中学校サッカー部

2種 藤井陽登 矢板中央高等学校サッカー部
 大畠凜生 矢板中央高等学校サッカー部
 吉野翼 佐野日本大学高等学校サッカー部

女子 関根芽衣美 栃木サッカーラブ レディース
 三島愛 栃木サッカーラブ レディース

2. 2021年度 (第34回) 森山賞受賞者

中村 敦 栃木シティフットボールクラブ 監督
 第55回関東サッカーリーグ1部 第4位

鷹賀倫弘 ヴェルフェ矢板 監督
 第55回関東社会人サッカー大会 準優勝

鯨岡佑太 FC CASA FORTUNA OYAMA 監督
 第55回関東社会人サッカー大会 第3位

上野哲 小山工業高等専門学校サッカー部 監督
 第50回関東高等専門学校サッカー選手権大会 ブロック優勝

堀田利明 作新学院大学サッカー部 監督
 第54回関東大学サッカー大会 第4位

久保田圭一 栃木サッカーラブ レディース 監督
 第26回関東女子ユース(U-15)サッカー選手権大会(兼)
 JFA第26回全日本U-15女子サッカー選手権大会関東予選 第3位

泉文夫 河内SCジュベニール 監督
 第28回関東女子サッカーリーグ入替トーナメント大会 ベスト4

増子明男 矢板中央高等学校サッカー部 監督
 JFA第8回全日本U-18フットサル選手権大会ベスト8
 JFA第8回全日本U-18フットサル選手権大会関東大会 準優勝

3. 2021年度 (第39回) 協会長賞受賞者

【団体】
 栃木シティフットボールクラブ
 第55回関東サッカーリーグ1部 第4位

ヴェルフェ矢板
 第55回関東社会人サッカー大会 準優勝

FC CASA FORTUNA OYAMA
 第55回関東社会人サッカー大会 第3位

小山工業高等専門学校サッカー部
 第50回関東高等専門学校サッカー選手権大会 ブロック優勝

作新学院大学サッカー部
 第54回関東大学サッカー大会 第4位

栃木サッカーラブ レディース
 第26回関東女子ユース(U-15)サッカー選手権大会(兼)
 JFA第26回全日本U-15女子サッカー選手権大会関東予選 第3位

河内SCジュベニール
 第28回関東女子サッカーリーグ入替トーナメント大会 ベスト4

矢板中央高等学校サッカー部
 JFA第8回全日本U-18フットサル選手権大会ベスト8
 JFA第8回全日本U-18フットサル選手権大会関東大会 準優勝

【個人】
 井口賢司 永年にわたり佐野市サッカー協会の役員として、協会の発展に貢献された。
 岩崎研一 永年にわたり栃木県サッカー協会の役員として、協会の発展に貢献された。
 谷昌宏 永年にわたり栃木県サッカー協会の役員として、協会の発展に貢献された。
 稲垣浩 永年にわたり栃木県サッカー協会の役員として、協会の発展に貢献された。
 漆原充誠 永年にわたり栃木県サッカー協会の役員として、協会の発展に貢献された。

ミッショントファイル

公益社団法人 栃木県サッカー協会の理念

公益財団法人日本サッカー協会の理念に基づき、栃木県においてサッカーの普及発展、競技力の向上に努め、サッカーを通じて栃木県民の豊かなスポーツ文化の振興及び心身の健全な発達に寄与する。

公益社団法人 栃木県サッカー協会のビジョン

1. 栃木県のサッカーの普及に努め、スポーツに親しむ環境を構築し、県民に健康と幸せを与える。
2. 競技力の向上を図り、栃木県代表チーム・選手が日本及び世界で活躍することにより県民に夢と希望を与える。
3. フェアプレーの精神を広め、人々の友好を深め、安全で豊かな社会を構築することに貢献する。

公益社団法人栃木県サッカー協会取り組み (TFAミッショントファイル)

《10年後の達成目標 (TFAゴールプラン2022)》

目標項目	達成目標	活動内容	現状数値 <2021年度>
サッカーファミリーの拡大	サッカーを愛する仲間(サッカーファミリー)のうち、 <u>プレーヤー・審判員・指導者が4万人(県民の2%)</u> になる。	1. 第1種登録チームの選手登録数の拡大 2. U13~18年代の選手登録数の拡大 3. 女子の選手登録数の拡大 4. フットサル選手登録数の拡大	サッカー選手登録 14,625人 フットサル登録 427人 審判員 5,569人 指導者 2,300人 計 22,632人 県民人口 1,921,575人 県民の 1.19%
本県代表の活躍	本県代表チームが全国のトップチームとなり、本県出身選手が「日本代表」として5名以上、「Jリーガー」として40名以上、「WEリーガー」として10名以上活躍する。また、「国際審判員」として2名、「1級審判員」として10名以上活躍する。	1. 代表チーム強化 2. 選手の強化・育成 3. 指導者の育成 4. 審判員の育成	日本代表 0人 女子日本代表 0人 Jリーガー 31人 WEリーガー 8人 国際審判員 1人 1級審判員 8人
組織の確立	(公社)栃木県サッカー協会が全国及び県民より信頼の得られる組織として確立し、 <u>全国ランキングトップ10入り</u> する。	1. 組織内の連携強化 2. 組織基盤の確立 3. 実施事業の充実	全国ランキング 第34位
J1チームの創設・活用	栃木SCがJ1に昇格し、本県選手と県民に夢と活気を与える。	1. 連携・共存体制の確立 2. サポート体制の確立 3. 協同連携事業の実施	J2所属栃木SC
サッカー施設の充実	県内的人工芝サッカー場が30面に増加する。	1. 対象自治体への整備要望活動の展開	人工芝サッカー場 ・鹿沼市 ・宇都宮市 ・矢板市 ・大田原市 ・那須塩原市 ・日光市 ・佐野市 ・小山市 ・真岡市 ・さくら市 ・足利市 ・栃木市 計 26面
2022年栃木国体での大活躍	栃木国体において「総合優勝」・「おもてなしの運営」	1. 代表チーム強化 2. 選手の強化・育成 3. 指導者の育成 4. 運営体制の確立	

TFA活動目標
2022年度の

- (1)アクションプランの遂行<各連盟・委員会のプランの遂行>
- (2)サッカーファミリーの拡大(グラスルーツの普及促進)
 - <プレーヤー・審判員・指導者登録数を県民の1.3%を目指す>
- (3)栃木国体の成功<各種別ベスト4以上を目指す、安心安全な大会運営>
- (4)各種別の本県代表チームの活躍
 - <全国大会ベスト8以上、関東大会準優勝以上を目指す>
- (5)J2栃木SC・関東リーグ栃木シティFC、ヴェルフェ矢板との連携・協力体制の確立
- (6)サッカー施設の拡充<人工芝サッカー場の1面増設>
- (7)県内各地区サッカー協会との連携・協力
- (8)財政の健全化<新たな収入源の確保と事業の最適化>

2022年度 アクションプラン

1. 第1種委員会：社会人連盟

2022年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・とちぎ国体を円滑に運営する。 ・県内リーグチーム強化。 ・各種大会の運営力の向上。 ・とちぎ国体で成年男子チームが優勝し、強化・指導の取り組みを継続する体制づくりを行う。 ・県1部リーグから関東リーグへのチーム昇格 ・コロナ禍でのチーム継続を助ける取り組み ・新規チーム数を増やすための取り組み ・登録チーム内のC級・B級指導者を増やす取り組み ・登録チーム内の3級審判員を増やす取り組み <ul style="list-style-type: none"> (2022年度から1部リーグチーム、2023年度から2部リーグへの帯同義務化を目指す) ・新型コロナ感染症拡大防止への取り組み
	<p><数値目標></p> <p>とちぎ国体で成年男子チームが優勝する。 登録チーム内の指導者・3級審判員を1名以上増やす</p>
	<p><スローガン> チーム社会人（1種）の取り組み</p>
2022度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・県内大会の活性化(コロナ禍で中止した事業の再開) ・全国大会の運営 ・Jチーム・関東リーグチームとの連携による国体チーム及び県内チームの強化 ・MC資格保有役員はマッチコミッショナーを2試合以上担当する。 ・県協会・他種別と共同で事業を実施し新規・継続選手数を増やす。 ・トーナメント大会参加数継続のためのサポート活動 ・県内上位リーグから指導者・3級審判員を増やす活動を実施する。 ・新型コロナ感染症拡大防止対策を徹底し安全な大会運営を行う。 ・国体成年男子チームの強化練習会を月に1回以上行う。
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・全国社会人サッカー選手権大会 ・全国社会人サッカー選手権大会関東予選 ・とちぎ国体 ・県内トーナメント大会・リーグ戦 ・J2・関東リーグチームとの連携・協力

2. 第2種委員会：高校連盟

2022年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高校サッカーの活性化（男女） ・本県代表校の活躍（男女） ・栃木県ユースサッカーリーグU-18の活性化 <p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 部員数 3,000人 関東大会・全国大会優勝 <p><スローガン> サッカー環境の整備（気持ちよくサッカーができるように）</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理体制の充実 ・全国高校サッカー選手権大会栃木大会 ・審判員の充実 ・栃木県ユースサッカーリーグU-18のよりよい運営 ・本県代表の関東・全国大会入賞 ・プレミアリーグ・関東プリンスリーグへの参入 ・とちぎ国体に向けた大会運営能力の向上
	<ul style="list-style-type: none"> ・審判研修会及び講習会の開催 ・高校連盟の試合途中経過・結果速報 ・各大会における技術・記録係等の研修 ・本県代表の全国大会入賞及び関東プリンス運営の協力体制づくり ・ユース審判員の育成及び活用

3. 第3種委員会：中学連盟

2022年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・競技環境の充実 ・指導者の質の向上 <p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ①U-15リーグに90%以上のチームの参加 ②公認A級、B級、C級コーチおよびインストラクター養成講習会への参加5名以上 ③M4による指導者講習会への参加率85%以上 ④マッチコミッショナー・ウェルフェアオフィサーの10名以上の養成 <p><スローガン> より良い育成環境を目指して</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・リーグ戦を軸とした年間カレンダーの見直しとリーグ再編 ・指導者養成事業及び指導者研修 ・各種大会レギュレーションの見直し
	<ul style="list-style-type: none"> ・U-15リーグ (1部リーグ・2部リーグ・3部リーグ・4部リーグ) ・公認A級、B級、C級コーチおよびインストラクター養成講習会 ・各地区での指導者講習会 ・マッチコミッショナー・ウェルフェアオフィサー養成講習会

4. 第4種委員会：少年連盟

2022年度の活動目標	<p>【事務局】①新型コロナウイルス感染症に対応した連盟運営の推進 ②連盟の活動全般における負担軽減を図る</p> <p>【競 技】①選手育成・技術力向上を視野に入れた、各種大会の企画 ②地区予選・県大会・上位大会関係業務の円滑な遂行</p> <p>【地 域】①選手育成を視点としたトップリーグ・地域リーグの充実 ②7地区の少年連盟と県少年連盟との意思疎通のためのパイプ役としての円滑な業務の遂行 ③登録チーム、登録選手の増加</p> <p>【技 術】①関東・全国レベルで通用する選手の育成</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ②指導者育成のための研修会の開催 ③県トレセンと地区トレセンとの連携強化 ④審判委員会との連携 ⑤女子の指導者養成 ⑥キッズ年代からの育成 <p>【審 判】①3級審判員の増員と育成を図る。 ②3級インストラクターの活動の場を増やす。 ③他種別でも活動できる派遣審判員の増員を図る。</p> <p>【記録広報】①正確な情報を迅速に提供</p> <p>【女 子】①女子選手の積極的育成 ②女子だけのチームを増やすこと(合同での活動も考慮)</p>
	<p><数値目標></p> <p>【地 域】各種申込書提出締め切り日の厳守</p> <p>【技 術】関東選抜大会ベスト4以上 ナショナルトレセン10名選出</p> <p>【審 判】3級審判員10名以上の増員(昇級)</p>
	<p><スローガン> 【技 術】 日常を変えよう 【審 判】 信頼されるレフェリーを目指して~凡事徹底~ 【記録広報】 正確に・迅速に・効率よく</p>
2022度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)	<p>【事務局】①新型コロナウイルス感染症対策の継続 ②ZOOM等を活用した会議運営等</p> <p>【競 技】①各種文書の発送、受信の厳正 ②選手育成・技術力向上を視野に入れた、計画的な年間プログラムの作成と大会企画・運営 ③JFAのシステムやWEB等を積極的に活用した大会運営 ④県大会におけるオープン参加の拡大を試行</p> <p>【地 域】①トップリーグ・地域リーグ等の円滑な運営 ②各地区から出た意見の県少年連盟への吸い上げ ③各委員会事業への協力 ア 競技運営委員会(県大会会場確保) イ 技術強化委員会(県トレセン) ウ 審判委員会(4級更新講習会) エ 広報委員会(地区及び県大会結果の報告) オ 女子委員会(県トレセンへの推薦)</p> <p>【技 術】①県トレセン活動の充実 ・年間指導計画の継続的検討と検証 ・トレーニングの質の向上 ②地区トレセンとの合同開催や指導協力 ③指導者の質の向上 ・指導者研修会の設定 ・県技術委員のB級取得促進 ④審判との連携によるたくましい選手の育成 ⑤女子の指導者養成 ⑥グラスルーツ委員会と連携したキッズ年代の交流会</p> <p>【審 判】①審判研修会の計画的実施 ②インストラクターによる指導・研修の場の拡充 ③派遣審判員リストの作成と割当部との連携強化</p> <p>【記録広報】①大会運営者・企業との円滑な情報連携 ②インターネットを活用した効果的な情報共有の効率化</p> <p>【女 子】①女子選手の育成事業の開催 ②地区トレセン女子活動の活性化</p>
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<p>【競 技】①計画的な年間プログラムの作成と大会企画・運営</p> <p>【地 域】①地域委員会の定期的開催 ②トップリーグ・地域リーグ等の運営 ③各種県大会の運営協力 ④地区の優秀な選手の発掘 ⑤他の委員会への協力 ⑥地区的理事会の活性化</p> <p>【技 術】①県内トレセン指導者への研修会の開催</p>

- ②ナショナルトレセン研修会などへの参加促進
 ③関東女子トレセンマッチデー、MTMトレセンマッチ、ナショナルトレセン選考会、ナショナルトレセン、キャノンガールズエイト、関東選抜大会
 ④キッズ年代の交流会の開催
 【審 判】①実技指導者研修会（各地区審判アドバイザー）
 ②3級審判員研修会（3級審判員のうち希望者）
 ③3級昇格に向けた研修会（3級昇格希望者）
 ④各種県大会の割当・他種別との連携
 ⑤所属審判員への研修関係の情報伝達、参加啓発

5. 女子委員会：女子連盟

2022年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> トレセン制度の充実・強化 競技人口の拡大 指導者の育成 女性審判、ユース審判の育成 3級新規審判員の発掘 JFA普及コーディネーターの活用 ゲーム環境の整備(特にU-15, 18および県リーグ) <p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 競技人口50名増 女性指導者D級10名・C級10名増 女性2級審判員1名、3級審判員5名増 なでしこひろば開催団体3団体増 <p><スローガン> 未来に繋げる！</p>
2022度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> U-13～16トレセン活動の充実・強化 国体少年女子選抜チームの強化 国体成年女子選抜の強化策再構築 普及事業 グラスルーツ委員会との連携強化を図り、登録人口増を目指す 審判トレセンの充実と底辺拡大 県リーグ等を利用して審判トレセンの充実を図る。ユース審判を含めた底辺の拡大 新規MCの発掘 審判インストラクターの発掘
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> トレセン女子U-13～16 U-12女子トレセンとの連携 審判トレセン

6. クラブユース連盟

2022年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> 関東リーグへの進出（各年代別強化） 帯同審判の質の向上 全国大会（クラブ選手権・高円宮杯）への出場 <p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 関東大会でのベスト8以上 全国大会への出場 <p><スローガン> 未来を担う選手たちと共に！ (高めあい・競い合い・認め合う)</p>
2022度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> U-15リーグを含めU-14の強化 リーグ戦・ベスト8までの帯同審判の向上 栃木国体に向けて、U-15・14の強化
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> U-15リーグ・U-13リーグ（関東・県） 帯同審判の講習会

7. シニア委員会：シニア連盟

2022年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア連盟の組織化（各年代） ・未登録チームの登録及び参加 ・選手の協会登録強化（各年代） ・関東大会の大会運営 ・関東予選会を突破し全国大会出場を目指す
	<p><数値目標></p> <p>各年代（O-40・O-50・O-60・O-70）の全国大会出場</p>
	<p><スローガン> 各年代での関東大会を突破し全国大会出場</p>
2022度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等（*新規事業も含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア連盟の組織の強化 ・シニアリーグの活性（各年代40、50、60） ・KTFA第17回関東O-60サッカー大会の開催、大会運営 ・シニアチームの各年代の関東予選会の突破し全国大会出場を目指す。
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア委員会の各年代役員メンバー選出 ・県シニアサッカー選手権大会（O-40, O-50, O-60）7月8月 ・県シニアサッカーリーグ（O-40, O-50, O-60）4月～3月 ・KTFA第16回関東O-70サッカー大会の開催 9月

8. 技術強化委員会

2022年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・2022栃木国体+10年を視野に入れた諸事業の実施 ・トレセン活動のさらなる充実と指導者間の連携 ・栃木TSG(テクニカルスタディグループ)データ活用
	<p><数値目標></p> <p>関東トレセン大会各種別Aクラス入り</p>
	<p><スローガン> 全県一致</p>
2022度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等（*新規事業も含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・国体強化策の具現化 成年男子：2022国体チーム強化策 選抜チーム。監督・スタッフ体制の決定済。 女子：成年選抜チームの発足。 隔年強化の具体策の作成。 少年選抜チーム強化策 栃木SCレディースを中心としたチームづくり ・少年男子：U-16早生まれ及びU-15県トレセンの強化 ラージグループからのメンバー選考と強化 ・トレセン改革 県トレセンの行い方の工夫と実践（より充実したものにするために） GKプロジェクト業務委託事業開始と展開 ・各種別の指導者養成及び指導者の掌握 若い指導者の育成とネットワークの形成 若手指導者の養成・強化 ・テクニカルスタディグループの活用及び指導者への還元 県内TSGレポートの作成 ・各種連盟や委員会との連携、そのための技術委員会組織の再編
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・U-16早生まれ・15県トレセン強化策 ・U-16女子トレセンのサポート ・新型コロナ感染症に対する感染拡大防止対策をしっかり行い、選手たちの活動機会を確保するとともに、より効果的なトレセン活動を充実していく。

9. フットサル委員会：フットサル連盟

2022年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・関東リーグへの進出 ・全国大会への出場 ・フットサルの普及 ・審判員の養成 ・会場の確保
	<p><数値目標></p> <p>関東リーグへの進出（関東2部、関東女子） 各カテゴリーでの全国大会出場</p>
	<p><スローガン> 栃木のフットサルの競技力の向上と普及・振興</p>
2022度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ol style="list-style-type: none"> ①男女栃木県リーグの競技の充実 ②各年代におけるフットサル大会の運営の充実 ③U-23年代以下の育成・強化 ④普及事業の情報の発信の工夫と促進（県協会HP等で） <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリーフットサルフェスティバル ・オープンフットサル大会 アンダーカテゴリー（U-15の部）の開設・普及 ・施設交流大会 ⑤県内におけるフットサルのPR（県協会HP等で） ⑥審判員の育成 ⑦新規役員の発掘、育成と組織の充実 ⑧国体デモスポーツの開催
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ol style="list-style-type: none"> ①栃木県フットサルリーグ ②全日本フットサル選手権栃木県大会 ③全国選抜フットサル大会 ④栃木県女子フットサルリーグ ⑤全日本女子フットサル選手権大会栃木県大会 ⑥全国女子選抜フットサル大会 ⑦年代別各カテゴリー（大学、U-18、U-15、U-12）のフットサル大会 ⑧各種普及イベントの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリーフットサルの開催 ・オープンフットサル大会（エンジョイリーグ） ・施設交流大会 ⑨審判講習会の実施

10. 審判委員会

2022年度の活動目標	<ol style="list-style-type: none"> ①国体に向け、審判員の増員、レベルアップを図る。また、実働の審判員だけでなく、インストラクターを中心に大会を運営できるスタッフの育成を目指す。 ②審判トレセンは毎月1回第3日曜日に固定し実施する。講義形式だけでなく、実技研修（プラクティカルトレーニング）を実施する。 ③スタートアップセンターを実施し、その場を3級インストラクターの活躍の場としても有効に活用し、指導者の資質向上、審判員の底辺の拡大・底上げを目指す。 ④コロナ対策として種別毎にWebで講習会を実施し、3級審判員を育成する。 ⑤大学生を対象とする講習会を継続する。 ⑥国体実施に伴い他県との交流を深める。
	<p><数値目標></p> <p>①審判員登録数を1級：7名、2級：70名、3級：500名、女子2級：5名、3級：10名 ②4級：4700名、フットサル：600名、女子審判員：300名を目標に育成する。 (中期、長期)</p>
	<p><スローガン></p> <p>THE CHALLENGE TO REFEREE FRIEND'S DREAM (審判仲間の夢への挑戦) 十河</p>

2022度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等
(*新規事業も含む)

- (1種)
 - ①3級審判員の拡大
県社会人リーグ参加チームから3級審判員を増やし、チーム登録審判員のレベルアップを図る。
 - ②over40審判員研修会の実施
over40審判員を対象にした実技研修会を開催して技術向上を図る。
 - ③3級インストラクターの新規増員
チーム登録審判員及び派遣審判員への助言・指導の機会を増やす。
- (2種)
 - ①4級ユース審判員の資格取得・更新の定着を図る。
 - ②ユース審判員の育成を充実させる。特にユース3級審判員の増加と、国体に向けてレフェリースクール卒業生の2級審判員昇級と育成を図る。
 - ③若手顧問の指導・育成を図る。
- (3種)
 - ①審判研修会の充実（トレセンマッチデーの活用）
 - ②若手審判員の発掘と育成（他種別との交流、3級審判養成講習会の開催）
 - ③ユース審判員の育成（取得と活動機会の提供）
- (4種)
 - ①3級審判員の増員と育成を図る。
 - ②3級インストラクターの活動の場を増やす。
 - ③他種別でも活動できる派遣審判員の増員を図る。
- (女子)
 - ①県リーグ、U-15リーグ参加チームから3級審判員を増員させ、リーグ全体のレベルアップを図る。
 - ②ユース(U-18、U-15)年代の審判員増員と育成。
 - ③3級審判向け競技規則研修会の実施。
 - ④公式戦決勝を女子審判員4名で実施。
- (シニア)
 - ①各チームに、審判資格取得者を4名以上確保する。そのうち、1名以上3級以上の審判員を確保する。
 - ②シニアの各カテゴリー(O-40からO-60まで)において、最新のルールを正しく理解させ、本県開催関東大会の審判割当を実施。
- (クラブ)
 - ①派遣審判員として活動できる人材を発掘する。
 - ②中体連と合同の4級審判資格新規取得講習会を開催する。
 - ③3級を目指す4級審判員を発掘し、指導育成する。
 - ④チーム帶同審判員を集めた審判研修会を実施する。
 - ⑤組織の見直しを図る。
- (フットサル)
 - ①実働審判員の確保
 - ②フットサル審判員の能力向上
 - ③上級審判員候補の発掘
- (指導・育成・インストラクター)
 - ①レベル合わせ実施と新アセスメントレポート様式導入。
 - ②計画性を持ったアセッサー割当て及びkick offシステムでの割当の実施
 - ③インストラクタースキルの修得及びアセッサー任務の義務化
 - ④2級昇級候補者の強化
 - ⑤3級インストラクター強化研修会の実施
 - ⑥レフェリースタートアップセンターによる4級審判員育成
- (割当部)
 - ①kick offサイトの継続的有効活用
インターネットやスマートフォン等を活用して審判員、インストラクターのスケジュール情報を共有し、効率の良い審判割当、アセッサー割当を行う。
kick offシステムでの審判割当、また必要事項を送信する。（健康チェックシートや連絡事項など）
kick offシステムでのアセッサー割当を検討する。（一部試合）
kick offシステムで栃木県内の2・3級審判員に派遣協力調査を行い、派遣審判員を登録制度化するように検討する。
 - ②各種別の連携強化
種別の垣根を越えて協力し、様々な種別に派遣することで審判員のレベルアップに貢献する。

	<p>また、派遣審判員を対象とした研修会を開催し一体感をもって底上げする。今年度より開幕前研修会を審判トレセンの位置づけで栃木県内の審判員に参加を促す。</p> <p>③在野の審判員の発掘 級に関係なく派遣審判員を目指す人材の発掘、育成をする。 (スタートアップセンターを軸に4級を底上げできるようにし、県内でアクティブに活動できる人材を増やす活動を行う。) 県協会ホームページに掲載し、幅広く宣伝できるように工夫する。 kick offシステムを使用して県内の4級審判員に直接、スタートアップセンターの案内を送信して参加者を増やす。 kick offシステムを使用して栃木県内の2・3級審判員に直接アプローチしてサッカーの審判員協力を促す。また国体運営やその他協力を要請する。 また、各種別からも積極的に活動したい方を呼びかけるようにお願いをする。</p> <p>(登録部)</p> <p>①新規取得講習会、および登録更新講習会の開催情報をkick offサイトと栃木県FAのホームページを活用して周知する。 ②講習会の開催時期や回数、方法の見直しを図る。</p>
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<p>(1種)</p> <p>①チーム審判員を対象にした3級昇格講習会を実施する。 ②自治体職員サッカー大会を用いover40審判員を対象にした研修会を開催する。 ③3級候補者を対象に競技規則や技能の向上を図る育成研修会を開催する。</p> <p>(2種)</p> <p>①ユース審判員 ・ユース審判員の上級資格取得の環境整備を行う。(3級取得講習会をオンラインで実施する) ・4級取得講習会を中部・北部・南部で行う。4級更新については、e-ラーニングを中心とし更新不備とならないような情報を提供する。</p> <p>②顧問 ・若手顧問を第2種の試合において積極的に割当して指導する。 ・若手顧問を指導して、2級審判員や3級審判員に昇級させる。</p> <p>(3種)</p> <p>①審判研修会の充実 ・10月一中学校県新人大会最終日 ・12月一下野杯中学生サッカー大会準々決勝4試合 ・3月一東日本中学生マロニエフェスティバルへの協力(他種別との交流を含めて) ・トレセンマッチデーへのインストラクターの派遣 ・オンラインを活用しての3級審判養成講習会の実施</p> <p>②審判員の発掘と育成 ・他種別の審判員との交流を推進する。 (3種→2種・1種へ) (4種→3種へ) ・地区担当者との連携強化(オンラインの活用)</p> <p>③ユース審判員の育成(取得と活動機会の提供) ・トレセンマッチデーや下野杯の副審等、活動機会の提供 (定期的な会議の実施)</p> <p>(4種)</p> <p>①審判研修会の計画的実施 ・実技指導者研修会(各地区審判アドバイザー) ・3級審判員研修会(3級審判員のうち希望者) ・3級昇格に向けた研修会(3級昇格希望者)</p> <p>②インストラクターによる指導・研修の場の拡充 ・県トップリーグ ・新規4級審判資格取得講習会(実技指導) ・3級昇格実技審査</p> <p>③派遣審判員リストの作成と割当部との連携強化 ・各種県大会の割当・他種別との連携 ・所属審判員への研修関係の情報伝達、参加啓発</p> <p>(女子)</p> <p>①ユース審判員の育成 ・5月4級新規取得講習会の実施(県央・県南・県北) ・高体連女子、クラブチームと連携を図り、リーグ戦に於いての実践と継続的な指導</p>

- ②研修会の充実
- ・新規3級取得WEB講習会の実施
 - ・3級取得者向けルール講習会の実施
- ③女子公式戦決勝4名女子で実施
- (シニア)
- ①審判の取得・更新を積極的に図る。
 - ・シニア主催新規4級審判資格取得講習会の実施
 - ・登録チームに、審判員の確保を促す。
 - ②本県開催関東大会の審判割当
 - ・シニア委員会での研修（最新ルール解説、派遣協力依頼）
 - ・リーグ戦や選手権大会での実技研修
 - ・3級審判員の育成
- (クラブ)
- ①派遣審判員として活動できる人材及び3級を目指す審判員を発掘し、指導育成する。（各チーム3級審判員帯同への推進）
 - ・日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会栃木県大会
 - ・栃木県U15・13リーグ
 - ・高円宮杯日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会栃木県大会
 - ・3種リーグチャンピオンシップ
 - ・下野杯争奪県下中学生サッカー選手権大会
 - ・他 各種別各大会
 - ②チーム帯同審判員を集めた審判研修会を実施する。
 - ・日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会栃木県大会 最終日
 - ③組織の活性化を図る。
 - ・新たな体制・取組みを実施
- (フットサル)
- ①各種（県・地区大会）大会帯同審判員へのアプローチ
 - 各種大会帯同審判員への技術指導
 - 審判活動希望者募集の為の広報活動（県協会HPへの掲載等）
 - 県リーグ各チーム帯同審判員への3級審判員への推奨
 - ②県リーグ担当審判員の主審技量の向上
 - 担当審判員研修会、他県リーグ・審判交流等を通じての競技知識の向上
 - 各種大会におけるインストラクターによる実技指導
 - ③F3昇級の為の育成コースの受講者の増員
 - F2昇級候補者の育成
- (指導・育成・インストラクター)
- ①新様式アセスメントの導入のためのレベル合わせ研修会を複数回実施する。
 - ②各インストラクター最低3試合以上のアセスメント実施を義務化する。各種別及び各部と随時情報交換を行い、審判員育成指導の連携を図る。
 - ③割当部、各種別及び各部と連携を図り、アセッサーの早期割当てに努め、強化対象審判員の継続的指導を実施する。
 - ④インストラクタートレセンによるチューテリング・IT・アナリシス・プラクティカル等のスキル修得促進。受講の義務化等資格要件制度をあわせて検討する。
 - ⑤2級インストラクター昇格候補者の強化研修を実施する。
 - ⑥経験の浅い3級・4級審判員の育成のため、レフェリースタートアップセンターを継続開催する。
 - ⑦2級審判昇格候補者を中心に3級審判員の強化対策を検討、実施する。

11. グラスルーツ委員会

2022年度の活動目標

〈全体〉

- ・各連盟や委員会、種別を超えて多くの人が関わり、普及事業を提供する
- ・サッカー未経験者とチーム未所属者の普及事業への参加者数の増加
- ・フェスティバル以外の普及イベントの企画（コロナ禍でも実施できるような企画含む）
- ・いちごー会とちぎ国体・とちぎ大会開催地区との連携
- ・サッカーの出会いから、登録拡大推進につなげる。

〈キッズ巡回指導〉

- ・行政との連携

	<ul style="list-style-type: none"> 巡回先の拡大と受益者負担への働きかけ TOYATAとの協働による指導内容の充実 巡回指導スタッフの発掘 <p>〈フェスティバル〉（キッズ・女子）</p> <ul style="list-style-type: none"> 地区と一体となったフェスティバルの開催 地区フェスティバルの内容の充実（チーム対抗戦のみにならないような工夫、親子サッカー等の提案） 各種別との連携 <p>〈なでしこひろば〉</p> <ul style="list-style-type: none"> とちぎフットボールセンター等を活用したなでしこひろばの開催継続と県内各地域で実施のなでしこひろばとの連携 <p>〈キッズリーダー講習会〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学・短大・専門学校等での開催、女子登録チーム対象の開催 キッズ含む普及の重要性を発信する講習会・研修会の開催 <p>〈女子サッカーデー〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施内容の検討（全ての世代が楽しめる企画）
	<p>〈数値目標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたち「延べ23,000人」との交流 サッカー未経験者「延べ500人」の参加 キッズリーダー講習会の開催（15コース、300名） キッズ巡回指導360回 普及の重要性を発信する講習会・研修会等の開催（2回） なでしこひろばの開催（通年）※登録拡大推進事業
	<p>〈スローガン〉</p> <p style="text-align: center;">栃木サッカーの発展はグラスルーツから ～だれもがサッカーの楽しさに触れられるように～</p>
2022度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> 指導者養成（キッズリーダー、キッズインストラクター等） コロナ禍でも実施できるイベント内容の検討 JFAフェスティバル（キッズ・女子・障がい者等） ※県内開催地・対象者の検討（目的の整理等） 地区フェスティバル（未経験者へのアプローチと参加者の増加⇒各種別での継続へ繋げる） なでしこひろばの継続～発展（女子の小・中学生の登録者数増に繋げる。レベル別の開催検討など。） 各地区フェスティバルのサポート（年2回以上の開催を目指す） フェスティバルに関わるスタッフの発掘 ユニクロキッズフェスティバルの開催に向けた準備 各種別間交流事業の充実 いちご一會とちぎ国体・とちぎ大会開催地区との連携による普及活動
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> JFAキッズサッカーフェスティバル JFAグラスルーツフェスティバル JFAレディースガールズフェスティバル JFA女子サッカーデー キッズ巡回指導 キッズリーダー養成講習会 地区主催キッズサッカーフェスティバル 栃木SC・栃木シティFC・ヴェルフェ矢板等の巡回指導とキッズ事業への参加 キッズ研修会 なでしこひろば 障がい者サッカーフェスティバル（3回）

本県開催 第43回皇后杯全日本サッカー選手権大会

第43回皇后杯全日本サッカー選手権大会の3回戦と準決勝が本県で開催され、県サッカー協会主管、女子サッカー連盟の運営により実施された。

3回戦は12月11日、12日の両日、真岡市総合運動公園陸上競技場で3試合が行われ、伊賀FCくノ一三重（なでしこ1部）が7-0で福岡J・安クラス（九州）、オルカ鴨川FC（なでしこ1部）が1-0で静岡SSUアスレジーナ（東海）、そしてスフィーダ世田谷FC（なでしこ1部）が2-1でアンジュヴィオレ広島（同）にそれぞれ勝利した。

準決勝は1月5日にカンセキスタジアムとちぎで準決勝2試合が行われ、安藤梢（宇都宮市出身・元日本代表）が所属するWEリーグの三菱重工浦和などの試合が行われた。

第1試合は、三菱重工浦和とC大阪堺（なでしこリーグ1部）の試合となり、安藤もフル出場するなか、1-0で勝利し3大会連続で決勝に進んだ。第2試合は千葉（WEリーグ）が1-0で日テレ東京Vメニーナ（関東）に勝利した。



栃木SC**栃木SC監督挨拶**

時崎 悠 監督



今シーズンより栃木SCの監督を務めさせていただきました、時崎悠です。縁とゆかりのあるこの栃木県で、自分にとって監督就任1年目の昨シーズンJ3の舞台で戦い、2年目となる今年からJ2のクラブを指揮できることは光栄で名誉なことだと思っています。

栃木という思い出の場所、そして多くの知り合いがいる環境でチャレンジできることをとても光栄に思っています。

2月19日に2022シーズンが開幕しました。秋田戦に関しては、J2というカテゴリーでそしてカンセキスタジアムで指揮を取ることは初めてでしたので、チームとしても準備の段階で不安な要素もあったなかでしたが、改めて、素晴らしい環境で素晴らしい雰囲気のなかで勝点3を取ることができ、大きな喜びを感じました。

今年掲げている目標”J2優勝、J1昇格”という目標のなかで、クラブの予算規模や戦力といったような自分たちが相手に対して下になるような位置付けに持っていくのではなく、自分たちが持っている力を最大限出していければ勝てない相手はいないということを感じられるようなシーズンにしたいと思っています。目標設定を高くすることでクラブや選手たちの志が自然と高くなっていくと思っていますし、全員が同じ方向を向いていかなければなし得ないことだと思います。

自分自身を振り返ってみると、高校時代に栃木県で学んだ3年間があったからプロになれたと思っていますし、こうしてまたサッカーに携わり、監督という仕事ができることに感謝しています。栃木県出身の選手が栃木SCにそしてJ1の舞台に、その先の海外に、日本代表にということを考えたら、やはり各々のチームはありますがみんなで手を取り合って栃木県から良い選手を輩出していくことがすごく大事なことだと思っています。現在の栃木SCにもアカデミー出身の選手が複数人在籍していますが、地元出身の選手が活躍することは栃木県民にとっても大きな喜びとなり、さらに地域に愛されるようなチームになっていくかと思います。栃木SC

と共に良い選手を育てていきたいですし、栃木県から良い選手が出てくるよねという場所にしていただらと思っております。皆さんと一緒に栃木県を盛り上げていけたら嬉しく思っています、宜しくお願ひ致します。

**社会人連盟****広報誌100号記念に寄せて**

1種委員会員長 鈴木 篤

広報誌「SOCCER TOCHIGI vol. 100」発行おめでとうございます。100回の発行を迎えたことは諸先輩方のサッカー愛とご尽力の賜物と存じます。

せっかくの機会ですので1種委員会についてと近況を報告させていただきます。

1種委員会はJリーグ・JFL・社会人連盟・大学連盟・高専連盟・自治体連盟などに関わる委員会です。細かな制約が少しあるものの栃木県では15歳以上であれば年齢の上限や性別の制限なく選手登録ができます。1種にはプロ・アマのクラブチーム、企業チーム、学生チーム、自治体チームなど多種多様なチームが登録しています。プロから草サッカー、学生サッカーと多くの人がプレーしています。主に大会運営を中心に委員会（各連盟）としての活動を行っております。

近況についてですが県内のトップは『栃木SC』でその活躍は広く知られていると思われます。アマチュアリーグのカテゴリーでは関東サッカーリーグ1部（KSL1）に栃木市を中心に活動する『栃木シティーフットボールクラブ』が参加しています。日本既存のアプローチとは違う斬新な進め方でJFLさ



らにはJリーグ入りを目指していて地域リーグの中では全国的に注目されています。2020年にはKSL1で見事優勝し続くJFL昇格大会となる全国地域サッカーチャンピオンズリーグで第3位となり、あと一息のところまでチーム強化が進んでいます。また県北矢板市に拠点を置く『ヴェルフェ矢板』は2021年の第55回関東社会人サッカー大会で準優勝し2022年度から関東サッカーリーグ2部(KSL2)に昇格しました。同大会では小山市の『FC CASA FORTUNE OYAMA』は第3位で昇格まであと一歩でしたがチームとしての最高成績は今後の励みになると思います。

大学サッカーでは『作新学院大学サッカーディビジョン』が第54回関東大学サッカー大会で第4位とこちらもあと一歩のところで関東大学サッカーリーグ昇格を逃してしまいましたが近年の活躍は期待を抱かせるものとなっています。

高専連盟の大会では『小山工業高等専門学校』が毎年のように関東大会を突破し全国大会に出場し好成績を残しています。

自治体チームでは『宇都宮市役所』が2019年の全国自治体職員サッカー選手権大会に関東大会を勝ち上がり出場しました。

近年活躍しているチームを紹介させていただきましたが1種に所属するチームのほとんどは日々仕事や学業をしながらサッカーに関わっています。これからも1種委員会は登録チーム・選手とともに栃木県サッカーをよりよくし、皆様とサッカーを楽しめるように活動をしていきます。関係する皆様のご協力をあらためてお願い申し上げます。

2022シーズンに向けて

栃木シティフットボールクラブ
若林 学

日頃より、栃木県サッカー協会、ホームタウンである栃木市及び栃木県南地域のみなさまには当クラブの活動に対し、深いご理解とご支援、ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

昨シーズンはJFL復帰にチャレンジして4年目、2シーズン目の中村監督のもとリーグ戦に挑み、前半戦は13試合負けなしなど首位を独走しましたが、終盤での上位直接対決を勝つことが出来ず結果は4位となりました。コロナ禍により全国社会人サッカー選手権大会も中止、リーグ戦の半分以上が無観客試合となってしまうなど、苦しいシー

ズンとなってしまいました。『昇格』というこの2文字の重さを感じた4年間でしたが、だからこそ得られる最高の喜びが待っていると信じ、シティは今シーズンに臨みます。

今シーズンは本当に勝負の年になります。シティの目標はJリーグ入りです。これは夢でもなんでもなく、成し遂げなければいけない目標です。その為にJFL昇格を達成しなければなりません。どんなに苦しくても前に進み勝ち取るしかありません。新監督にはJリーグでもコーチ経験のある今矢直城、ヘッドコーチには選手としてJリーグでも実績十分であり、2018シーズン共に戦った津田琢磨が就任しました。そして、GKコーチもJリーグで選手・コーチとして実績のある田北雄氣とコーチングスタッフも万全の体制となり、新加入選手には元韓国代表のチョ・ヨンチョル、栃木県出身の阿部翔、赤澤蓮と戦えるメンバーが揃いました。

開幕は4月ですが、チームは1月中旬から始動しています。リーグ戦、地域SCLを勝ち抜くのに大事なのは全員が戦力である事、そしてチーム力です。その為に早い時期からトレーニングを行い、高いレベルで切磋琢磨しながら個人・チームのレベルを上げています。今シーズンのスローガンは『覚悟』です。選手・チームスタッフだけではなく、クラブスタッフを含めシティに関わる全ての人が覚悟を持って戦っていきます。皆様には今までと変わらぬ応援でチーム・クラブの後押しをお願いします。共に目標を達成し、共に笑顔で今シーズンを終わらせたらと思っています。

最後になりましたが、栃木シティフットボールクラブはこれからも進み続けます。大勢の人に知つてもらい、応援してもらい、皆様と共にJリーグ入りを目指していきたいと思っています。シティの発展が地域の発展と信じ、私たちが出来る事を一つ一つ全力で行っています。より地域との絆を強固にしながら、サッカーを通して栃木県南地域の活性化に取り組んで行くことはもちろん、これまでと変わらず皆様に『夢・希望・感動』を与え続けられるようなサッカークラブを目指して参ります。

引き続き、ご指導とご支援、ご声援の程、宜しくお願い致します。

集う場所がある意義と、 非日常の創出

ヴェルフェ矢板 鷹賀 優弘

日頃より（公社）栃木県サッカー協会、ホームタウンである矢板市の皆さまをはじめ多大なるご支援、ご協力、ご声援を賜りまして誠にありがとうございます。また、広報誌100号発刊に際し、寄稿させていただく機会をいただけたこと、感謝申し上げます。

2021シーズンは、我々が目標としていた関東リーグへの昇格を成し遂げることができました。今般の難しい社会情勢の中、リーグ戦をはじめとする各種大会や試合を実施・運営していただきました関係の方々に改めて感謝申し上げます。

思い返せば、日々のトレーニングのなかで毎日「昇格」という言葉を使って選手を鼓舞していくわけではありません。週末にやってくる試合のために準備し、試合を全力で闘い、そこから得られた課題と次の対戦相手の対策をする、その繰り返しでした。日常の中で繰り返される「非日常」を、選手やスタッフと共に全力で走り抜けた印象です。そのために、「感情を表現すること（サッカーは感情表現のスポーツ）」、「影響を与え合うこと」、「ピッチで大好きなサッカーを全力で楽しむために、ピッチ外の部分（生活や仕事等）にも全力を尽くすこと」これらのこと何度も何度も伝えました。選手もその意図を汲んで、意欲的に取り組んでくれました。

全ての試合で望んだ結果が得られたわけではありませんが、昇格を成し遂げられたことで、結果的にこの歩みが間違いではなかったと証明してもらえたように感じています。

2022シーズンも、我々のやることは変わりません。素晴らしい選手やスタッフたちと週末の試合に向けて準備し、闘い、振り返ってまた準備する、その繰り返しです。その日常の中に、仕事とは別の全力を尽くすものがあること、皆で大笑いしたり腹立たしい思いをかかえたり純粋な感情を表現できること…我々は集いボールを蹴ることで、最高の「非日常」を表現します。

カテゴリーがアマチュアでも、プロでも、リーグのレベルが様々でも、サッカーが持つエンターテインメント性は変わりません。我々は我々の闘いの舞台で、自分たちのできる精一杯を表現し、何よりも自分たちが最高にサッカーを楽しみたい

と思います。

新しいシーズンが、サッカーファミリーの皆さんにとって素晴らしいものになることを。そして、（公社）栃木県サッカー協会のますますの発展をご祈念し、筆を置かせていただきます。ありがとうございました。

心機一転

作新学院大学サッカー部

作新学院大学サッカー部（以下、作大サッカー部）は、作新学院大学の建学の精神である「作新民（時代の変化にきちんと対応し、自らを常に新しくできる人材を育てるここと）」を基盤とし、「サッカーを通じて自主・自律する」というVisionを掲げ、「挑戦・献身・辛抱」というMissionを設定し活動しています。

作大サッカー部は、北関東大学サッカーリーグに所属しているトップチーム、インディペンデンスリーグ2021関東1部に所属しているIリーグチーム、栃木県社会人サッカーリーグ1部に所属している作大FCという3つのカテゴリーから構成されております。昨年度、トップチームは、北関東大学サッカーリーグにおいて優勝し、関東大学サッカー大会（以下、入替戦）に出場しました。6チームによる入替戦では、2勝するも3敗してしまい、目標である関東大学サッカーリーグ2部には、一歩及びませんでした。また、Iリーグチーム及び社会人チームは新型コロナウィルス感染症拡大のため、不規則なリーグ戦となり、苦戦を強いられましたが、どちらも1部に残留することができました。

その他、作大サッカー部の卒業生2名がいわきFCのJ3昇格に大きく貢献しました。また、4年生1名、3年生1名（特別強化指定選手）がいわきFCへ加入しました。最近では、プロ選手を輩出することができています。

2022年度は、「心機一転」というスローガンを掲げ、各カテゴリーとも目標を達成できるよう頑張りたいと思います。サッカー選手である前に人として、学生としての成長が目標達成には必要であるため、日々の生活から改善し、新たな作大サッカー部を創出したいと思います。



高校連盟

高校連盟より

栃高体連サッカー専門部委員長(男子)
臼井 紀仁

高校サッカー選手権栃木大会

記念すべき第100回大会となった高校サッカー選手権大会栃木大会は、矢板中央高校が決勝戦で佐野日大高校を下し、5大会連続優勝となりました。

昨年度同様、とちぎテレビ様に協力して頂き、大会1回戦からネット中継を行いました。また、出場全チームの紹介動画を各チーム独自で制作し、とちぎテレビホームページで公開する企画も併せて実施しました。会場で直接観戦できない状況が続く中、少しでも選手たちの輝く姿を発信できたのではないかと思います。



全国高校サッカー選手権大会

100回の大きな節目を迎える、再び新国立競技場に準決勝・決勝の舞台を戻した全国選手権大会。2大会連続3位となっている矢板中央高校に「国立決勝進出」の期待が高まりました。初戦となる2回戦の相手はインターハイ準優勝の米子北(鳥取県)。一進一退の好ゲームとなった試合はPK方式にもつれましたが、GK藤井選手の大活躍で勝利しました。3回戦は東京B代表関東第一と対戦。2回戦同様拮抗した試合展開となり、2度追いつきましたが、終了間際に失点し、惜しくもベスト16で大会を終えました。

プリンスリーグ関東・ユースリーグ栃木

プリンスリーグ関東では、矢板中央高校が7位で終え、残留となりました。来年度からプリンスリーグ関東が2部化するため、今季県1部リーグで優勝した矢板中央Bが、来季から関東2部に参入することとなりました。

今年度の県ユースリーグは、新型コロナウイルス感染症の拡大によって日程延期を余儀なくされ、当初予定していた全日程を実施することが不可能

となりました。解決策として、前期の順位によって各ブロックを上位・下位リーグに分けて、試合数を減少して後期を実施する方式に変えました。昨年度は実施しませんでしたが、今年度は最終順位によって昇降格を実施し、来年度のリーグ編成をします。

高校サッカー新人大会

新人大会は昨年度実施できなかったこともあり、今年度こそは何とか実施したいと考えていました。しかし、年明け以降の新型コロナ感染急拡大を受け、2回戦終了時点での中止の判断をしました。

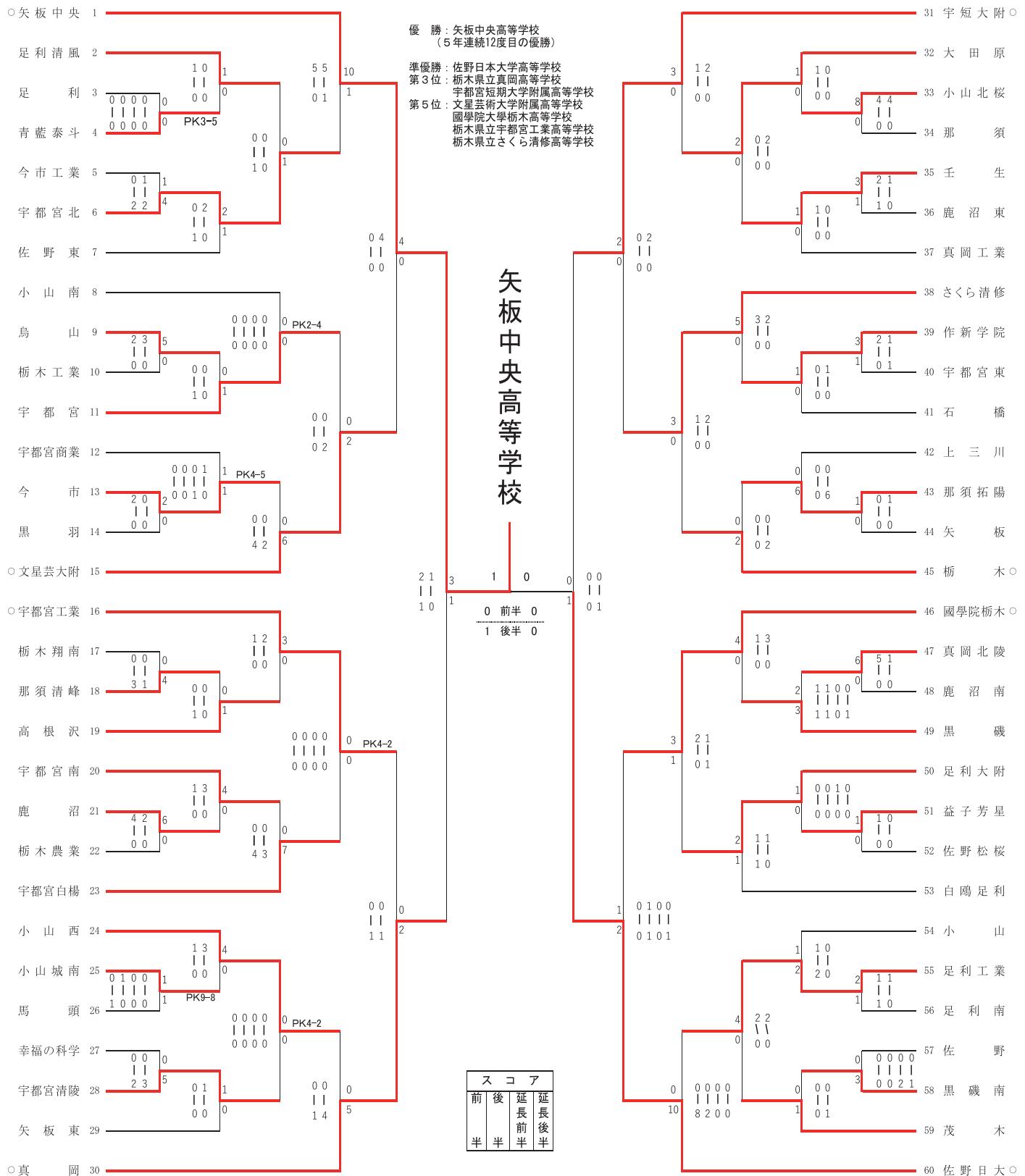
おわりに

昨年度は関東予選・全国総体予選・新人大会が中止となっていましたが、今年度は新人大会以外の各事業を何とか実施することができました。各校の指導者・関係者の皆様のご尽力に心から感謝申し上げます。観客制限を含め、来年度も感染対策を講じながらの大会運営となることが予想されます。引き続き、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



令和3年度 第100回全国高等学校サッカー選手権大会 栃木大会 結果

令和3年10月16・17・23・30日 11月3・6・13日



10/16 | 10/17 | 10/23 | 10/30 | 11/3 | 11/6 | 11/13 | 11/6 | 11/3 | 10/30 | 10/23 | 10/17 | 10/16

高円宮杯U-18リーグ3部 e 下位

	國學院 栃木B	足利清風	足利	栃木B	足利工業	小山南C	壬生	小山B	佐野松桜	栃木工業 B	小山城南	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	順位
壬生	1●4	1●2	0△0	1△1	2●4	1●3		1△1	0△0	--	0△0	17	4	5	4	25	18	7	7
	--	--	--	--	--	--		2○0	3○0	8○2	5○1								
小山B	0●15	2○0	1○0	0●1	1●3	5○0	1△1		0●4	--	1△1	17	5	2	6	16	31	-15	8
	--	--	--	--	--	--	0●2	4○1	0●3	1○0									
佐野松桜	1●4	0●3	0●3	0△0	0●3	1●2	0△0	4○0		--	3○1	12	3	3	7	11	23	-12	9
	--	--	--	--	--	--	0●3	1●4		0△0	1○0								
栃木工業 B	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	3○0	7	2	1	1	8	8	0	10
	--	--	--	--	--	--	--	2●8	3○0	0△0									
小山城南	0●7	0●1	1●6	0●3	3○2	0●1	0△0	1△1	1●3	--		5	1	2	10	7	34	-27	11
	--	--	--	--	--	--	1●5	0●1	0●3										

高円宮杯U-18リーグ3部 f 上位

	栃木 シニア U-18	佐野日大 C	青藍泰斗 B	足利大附	小山北桜	小山南B	栃木工業	足利B	栃木翔南	佐野	足南・栃農合同	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	順位
	3○2	4○0	4○0	9○2	2○1	2○1	5○0	5○0	10○0	2○1	45	15	0	0	71	9	62	1	
	3○1	2○0	6○1	8○0	6○0	--	--	--	--	--									
佐野日大 C	2●3		4○0	5○1	11○0	5○0	3○0	4○1	7○0	10○0	10○0	36	12	0	3	87	9	78	2
	1●3	0●1	3○0	15○0	7○0	--	--	--	--	--									
青藍泰斗	0●4	0●4	2●3	1●2	2○0	5○0	3○0	2○0	6○0	6○0	30	10	0	5	44	17	27	3	
	0●2	1○0	7○0	5○0	4○2	--	--	--	--	--									
足利大附 B	0●4	1●5	3○2		4○2	2○1	1△1	5○0	6○0	7○1	11○1	25	8	1	6	47	35	12	4
	1●6	0●3	0●7	0●1	6○1	--	--	--	--	--									
小山北桜	2●9	0●11	2○1	2●4		1○0	1●6	6○0	5○0	2○1	1●2	21	7	0	8	26	63	-37	5
	0●8	0●15	0●5	1○0	3○1		--	--	--	--									
小山南B	1●2	0●5	0●2	1●2	0●1		2○0	1○0	0●2	2○0	1○0	12	4	0	11	12	40	-28	6
	0●6	0●7	2●4	1●6	1●3		--	--	--	--									

高円宮杯U-18リーグ3部 f 下位

	栃木 シニア U-18	佐野日大 C	足利大附 B	青藍泰斗	小山北桜	小山南B	栃木工業	佐野	足利B	栃木翔南	足南・栃農合同	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	順位
	1●2	0●3	1△1	0●5	6○1	0●2		0●1	1●2	6○1	3○1	20	6	2	6	27	23	4	7
	--	--	--	--	--	--		1△1	2○1	3○0	3○2								
佐野	0●10	0●10	1●7	0●6	1●2	0●2	1●0		0●4	0●4	2○0	16	5	1	8	17	48	-31	8
	--	--	--	--	--	--	1△1	2○0	4○0	5○2									
足利B	0●5	1●4	0●5	0●3	0●6	0●1	2○1	4○0		0△0	4△4	14	4	2	8	21	35	-14	9
	--	--	--	--	--	--	1●2	0●2		5○2	4○0								
栃木翔南	0●5	0●7	0●6	0●2	0●5	2○0	1●6	4○0	0△0		1△1	11	3	2	9	17	47	-30	10
	--	--	--	--	--	--	0●3	0●4	2●5	7○3									
足南・栃農合同	1●2	0●10	1●11	0●6	2○1	0●1	1●3	0●2	4△4	1△1		5	1	2	11	17	60	-43	11
	--	--	--	--	--	--	2●3	2●5	0●4	3●7									

令和3年度全国高等学校定期制通信制体育大会 第31回サッカー大会に出場して

学悠館高等学校サッカーチーム監督 館野 光徳

昨年度のチームは関東大会で準優勝し、全国大会でも、ベスト8の壁を破ろうとモチベーションが高かったものの、新型コロナウイルス感染症の拡大による大会の中止により、多くの部員が卒業を迎えることとなりました。今年度の新チームは、部員もギリギリの状態で昨年度のモチベーションの高さが感じられない中、チームのスタートを切りましたが、なんとか6月栃木県高等学校定期制通信制総合体育大会を勝ち抜き、6年連続で全国高等学校定期制通信制体育大会サッカー大会に出場させていただきました。

静岡県静岡市で行われた8月の全国大会では、1回戦で埼玉県第2代表の日々輝学園と試合を行い、0-0からPK 5-4で勝利することができ

ました。その後の2回戦では、兵庫県代表の飾磨工業に0-5の大敗で敗れる結果となりました。

昨年度から今年度にかけて、0からのチームづくり、大会開催が不透明で目標が定まらない中で、日々のトレーニングでのモチベーションの維持など、改めて選手含め指導する側にとってもサッカーというスポーツの難しさ、楽しさを確認できました。

最後になりましたが、栃木県サッカー協会をはじめ、栃木県大会から全国大会まで関わってくださった全ての方々に感謝し、御礼申し上げます。



1回戦 ラウンド16 準々決勝 準決勝 決勝戦 準決勝 準々決勝 ラウンド16 1回戦																																																																																																								
<table border="1"> <tbody> <tr><td>星槎国際東京 [東京都1]</td><td>[11]08/01 10:30 清水NTC西</td><td>7 2</td><td>OPK1</td><td>OPK3</td><td>[15]08/01 15:00 清水NTC東</td><td>0 3</td><td>勇志国際 [熊本県]</td></tr> <tr><td>清明 [京都府]</td><td>[1]07/31 10:30 清水NTC西</td><td>0 2</td><td>[19]08/02 10:30 清水NTC西</td><td>[21]08/02 12:00 清水NTC東</td><td>[6]07/31 16:30 清水NTC東</td><td>13 0</td><td>刈谷東 [愛知県]</td></tr> <tr><td>貞山 [宮城県]</td><td></td><td></td><td></td><td>1PK1</td><td>1PK2</td><td></td><td>伊勢崎工業 [群馬県]</td></tr> <tr><td>加茂 [岐阜県]</td><td>[2]07/31 12:00 清水NTC西</td><td>0 6</td><td>[12]08/01 12:00 清水NTC西</td><td>[23]08/03 10:00 清水NTC西</td><td>[16]08/01 13:30 アイスター</td><td>0 5</td><td>学悠館 [栃木県]</td></tr> <tr><td>松戸南 [千葉県]</td><td></td><td></td><td></td><td>2PK5</td><td>2PK6</td><td></td><td>日々輝学園 [埼玉県2]</td></tr> <tr><td>博多青松(通) [福岡県2]</td><td>[3]07/31 13:30 清水NTC西</td><td>DEF</td><td></td><td>1PK4</td><td>1PK5</td><td></td><td>飾磨工業 [兵庫県1]</td></tr> <tr><td>甲府工業 [山梨県]</td><td></td><td></td><td></td><td>[24]08/03 10:30 清水NTC東</td><td></td><td></td><td>西宮香風 [兵庫県2]</td></tr> <tr><td>博多青松(定) [福岡県1]</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1PK4</td><td>[8]07/31 13:30 清水NTC東</td><td>秀英 [神奈川県2]</td></tr> <tr><td>静岡中央 [静岡県2]</td><td>[4]07/31 13:30 清水NTC西</td><td>2 4</td><td>[13]08/01 13:30 清水NTC西</td><td>[17]08/01 12:00 清水NTC東</td><td>1PK2</td><td>DEF</td><td>吹上秋桜 [埼玉県1]</td></tr> <tr><td>長岡明徳 [新潟県]</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>[22]08/02 10:30 清水NTC東</td><td>[9]07/31 12:00 清水NTC東</td><td>倉敷翔南 [岡山県]</td></tr> <tr><td>科技高日野 [東京都2]</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>鹿島灘 [茨城県]</td></tr> <tr><td>相模向陽館 [神奈川県1]</td><td>[5]07/31 16:30 清水NTC西</td><td>1 4</td><td>[14]08/01 15:00 清水NTC西</td><td></td><td></td><td></td><td>徳風 [三重県]</td></tr> <tr><td>長尾谷 [大阪府]</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>浜松太平台 [静岡県1]</td></tr> </tbody> </table>	星槎国際東京 [東京都1]	[11]08/01 10:30 清水NTC西	7 2	OPK1	OPK3	[15]08/01 15:00 清水NTC東	0 3	勇志国際 [熊本県]	清明 [京都府]	[1]07/31 10:30 清水NTC西	0 2	[19]08/02 10:30 清水NTC西	[21]08/02 12:00 清水NTC東	[6]07/31 16:30 清水NTC東	13 0	刈谷東 [愛知県]	貞山 [宮城県]				1PK1	1PK2		伊勢崎工業 [群馬県]	加茂 [岐阜県]	[2]07/31 12:00 清水NTC西	0 6	[12]08/01 12:00 清水NTC西	[23]08/03 10:00 清水NTC西	[16]08/01 13:30 アイスター	0 5	学悠館 [栃木県]	松戸南 [千葉県]				2PK5	2PK6		日々輝学園 [埼玉県2]	博多青松(通) [福岡県2]	[3]07/31 13:30 清水NTC西	DEF		1PK4	1PK5		飾磨工業 [兵庫県1]	甲府工業 [山梨県]				[24]08/03 10:30 清水NTC東			西宮香風 [兵庫県2]	博多青松(定) [福岡県1]					1PK4	[8]07/31 13:30 清水NTC東	秀英 [神奈川県2]	静岡中央 [静岡県2]	[4]07/31 13:30 清水NTC西	2 4	[13]08/01 13:30 清水NTC西	[17]08/01 12:00 清水NTC東	1PK2	DEF	吹上秋桜 [埼玉県1]	長岡明徳 [新潟県]					[22]08/02 10:30 清水NTC東	[9]07/31 12:00 清水NTC東	倉敷翔南 [岡山県]	科技高日野 [東京都2]							鹿島灘 [茨城県]	相模向陽館 [神奈川県1]	[5]07/31 16:30 清水NTC西	1 4	[14]08/01 15:00 清水NTC西				徳風 [三重県]	長尾谷 [大阪府]							浜松太平台 [静岡県1]
星槎国際東京 [東京都1]	[11]08/01 10:30 清水NTC西	7 2	OPK1	OPK3	[15]08/01 15:00 清水NTC東	0 3	勇志国際 [熊本県]																																																																																																	
清明 [京都府]	[1]07/31 10:30 清水NTC西	0 2	[19]08/02 10:30 清水NTC西	[21]08/02 12:00 清水NTC東	[6]07/31 16:30 清水NTC東	13 0	刈谷東 [愛知県]																																																																																																	
貞山 [宮城県]				1PK1	1PK2		伊勢崎工業 [群馬県]																																																																																																	
加茂 [岐阜県]	[2]07/31 12:00 清水NTC西	0 6	[12]08/01 12:00 清水NTC西	[23]08/03 10:00 清水NTC西	[16]08/01 13:30 アイスター	0 5	学悠館 [栃木県]																																																																																																	
松戸南 [千葉県]				2PK5	2PK6		日々輝学園 [埼玉県2]																																																																																																	
博多青松(通) [福岡県2]	[3]07/31 13:30 清水NTC西	DEF		1PK4	1PK5		飾磨工業 [兵庫県1]																																																																																																	
甲府工業 [山梨県]				[24]08/03 10:30 清水NTC東			西宮香風 [兵庫県2]																																																																																																	
博多青松(定) [福岡県1]					1PK4	[8]07/31 13:30 清水NTC東	秀英 [神奈川県2]																																																																																																	
静岡中央 [静岡県2]	[4]07/31 13:30 清水NTC西	2 4	[13]08/01 13:30 清水NTC西	[17]08/01 12:00 清水NTC東	1PK2	DEF	吹上秋桜 [埼玉県1]																																																																																																	
長岡明徳 [新潟県]					[22]08/02 10:30 清水NTC東	[9]07/31 12:00 清水NTC東	倉敷翔南 [岡山県]																																																																																																	
科技高日野 [東京都2]							鹿島灘 [茨城県]																																																																																																	
相模向陽館 [神奈川県1]	[5]07/31 16:30 清水NTC西	1 4	[14]08/01 15:00 清水NTC西				徳風 [三重県]																																																																																																	
長尾谷 [大阪府]							浜松太平台 [静岡県1]																																																																																																	



高校女子サッカー 2021年度シーズンを終えて

栃高体連サッカー専門部 女子委員会総務
増田能人

初めに、この度、新型コロナウィルス感染症（COVID-19）により、罹患された方々に心よりお見舞い申し上げると共に、医療従事者の皆さまをはじめ、行政の皆さまや感染防止にご尽力されている皆さまに敬意を表し、深く感謝申し上げます。

高校女子サッカーでは、春の総体予選・秋の選手権予選を行うことができました。春の総体予選では、宇都宮短期大学附属高校が決勝戦で宇都宮文星女子高校を相手に、1-0で勝利し、初優勝を飾りました。また、秋の選手権予選では、同じく

宇都宮短期大学附属高校と宇都宮文星女子高校の決勝戦が行われましたが、両者ともに譲らず0-0のまま、延長戦にもつれ込みました。延長戦に入っても、互いに激しいプレスを続け、得点を奪うことが出来ず、PK戦となり、3-1で宇都宮文星女子高校が勝利しました。関東選手権大会では、両校とも群馬県の代表校と戦いました。粘り強い守備とアイデア溢れた攻撃を幾度となく見せてくれましたが、残念ながら両校とも初戦で敗退してしまい、全国大会への出場はできませんでした。また、秋季関東大会へは、宇都宮女子高校と白鷗大学足利高校が参戦しました。白鷗大学足利高校はベスト4に入り、本県初の成績を成し遂げてくれました。

他都県と比べて、競技人口やチーム数が少ない本県ですが、少しずつ競技レベルの差が縮まっている様子を見て取れるようになりました。12月に行わ

れた宇都宮フェスティバルでは、2年ぶりに他県のチームをお呼びして開催することが出来ましたが、本県のどのチームも他県のチームとより均衡した試合を展開できるようになっていました。今後も、高校女子サッカーに関わる全ての方々と協力して、本県のレベルアップを図りたいと思います。

最後に、一日も早い新型コロナウィルス感染症(COVID-19)の終息と、皆さまのご健康を心よりお祈り申し上げます。

第4種

第50回U-10 栃木県少年サッカー選手権大会



10月16日・17日・23日の3日間、真岡市総合運動公園運動広場、丸山公園サッカー場、栗野総合運動公園など、県内10会場において、97チームが参加し、新型コロナウィルス感染予防対策を行いながら行われました。

大会では、1日目のリーグ戦を勝ち抜いた32チームが、2日目以降の決勝トーナメントに進出し、熱戦を繰り広げました。大会3日目・準決勝まで勝ち進んだのは、三重・山前FC、ともぞうサッカークラブ U10、FC VALON、アルゼンチンサッカークラブ日光の4チームでした。

そして、決勝のステージに勝ち上がったのは、両毛地区の三重・山前FCと宇河地区のともぞうサッカークラブU10の2チームでした。

決勝は、1点を争う大接戦となり、互いに得点を奪うことなく前後半を終えました。試合は延長戦を戦っても勝敗が決まらず、PK戦にまで突入します。PK戦を制して優勝の栄冠をつかみ取ったのは、三重・山前FCでした。三重・山前FCは、U-10選手権で初めての頂点を極めました。



＜優勝 三重・山前FC＞



＜準優勝 ともぞうサッカークラブ U10＞



＜第3位 FC VALON＞



＜第3位 アルゼンチンサッカークラブ日光＞

JFA第45回全日本U-12 サッカー選手権大会栃木県大会



今大会は、10月31日・11月7日の2日間にわたり、さくらスタジアム、青木サッカー場の2会場において行われました。新型コロナウイルス感染症の広がりにより、緊急事態宣言が大会直前まで発出されていたため、県トップリーグ16チームの参加により大会を開催しました。

激しい戦いを乗り越え準決勝に勝ち進んだのは、塩南地区のヴェルフェ矢板U-12・fleur、宇河地区の栃木サッカークラブU-12、ともぞうサッカークラブ、下都賀地区のMORANGO栃木フットボールクラブU12の4チームでした。

ハイレベルな準決勝を勝ち抜き、決勝に進んだのは、2年連続で大会を制してきた栃木サッカークラブU-12とヴェルフェ矢板U-12・fleurでした。

試合は、1点を争う厳しい戦いとなりました。後半、チャンスを先制点に結びつけたのは、ヴェルフェ矢板U-12・fleurでした。終盤、栃木サッカークラブU-12の猛攻を受けますが、貴重な得点を守り抜いたヴェルフェ矢板U-12・fleurは、1-0で見事勝利を収めました。ヴェルフェ矢板U-12・fleurの全国大会出場は、チーム3度目となりました。



＜優勝 ヴェルフェ矢板U-12・Fleur＞



＜準優勝 栃木サッカークラブU-12＞



＜3位 ともぞうサッカークラブ＞



＜3位 MORANGO栃木フットボールクラブ U12＞

第39回U-11栃木県少年 サッカー大会

JA全農杯の部・U-11大会の部



12月19日・1月8日・10日・15日、の4日間わたり、足利市西部多目的運動場（あしスタ）、SA KURAグリーンフィールド、とちぎフットボールセンターなど県内8会場において、JA全農杯の部に21チーム、U-11の部に48チームが参加し、開催されました。大会初日には、積雪により、JA全農杯の部が一部延期となりましたが、日程を変更しながら無事に大会を終えることができました。

JA全農杯の部

3ピリオドを戦い抜き準決勝に勝ち上がったのは、宇河地区のともぞうサッカークラブ、栃木サッカークラブU-12、下都賀地区のFC VALON、北那須地区の三島FCの4チームでした。

決勝は、共に準決勝での接戦を制してきたFC VALONと、ともぞうサッカークラブの組合せとなりました。試合は両チームとともに、3ピリオド・延長前後半でも勝敗がつかず、PK戦までもつれました。PK戦3-2で勝利をつかんだのはFC VALON、チーム3度目の栄冠に輝きました。上位2チームは「JA 全農杯全国小学生選抜サッカーIN 関東」への出場権を獲得しました。



＜優勝 FC VALON＞



＜準優勝 ともぞうサッカークラブ＞



＜3位 三島FC＞



＜3位 栃木サッカークラブU-12＞

U-11の部

大会3日目の準決勝に進出したのは、芳賀地区の祖母井クラブ、J-SPORTSFOOTBALLCLUB、上都賀地区のNIKKO. SPORTS. CLUB、下都賀地区の野木SSSの4チームでした。

決勝は、共に準決勝で得点差をつけて快勝してきたJ-SPORTSFOOTBALLCLUB U-12と野木SSSの組合せとなりました。試合は、前後半2-2の同点で延長戦へと突入します。J-SPORTS FOOTBALLCLUB U-12は、この延長戦で2得点をあげ、大会初優勝の栄冠をつかみ取りました。



<優勝 J-SPORTSFOOTBALLCLUB U-12>



<準優勝 野木SSS>



<3位 NIKKO. SPORTS. CLUB>



<3位 祖母井クラブ>

上位大会の結果

【2021フジパンCUP第45回関東U-12サッカー大会】

栃木SC

2位トーナメント出場

ともぞうSC

3位トーナメント準優勝

アミスタ市貝

3位トーナメント出場

【JFA第45回全日本U-12サッカー選手権大会】

ヴェルフェ矢板U-12・fleur

1次ラウンド グループI出場

—— クラブユース ——

『広報誌100号に寄せて』

栃木県クラブユースサッカー連盟
副会長 佐田洋子



広報誌100号の発行おめでとうございます。関係各位、皆様にお礼申しあげます。

クラブ連盟は、この10年ほどで、10チーム以上増え、ユース2チーム・ジュニアユース31チームの組織となりました。この間には、地震・原発事故の影響で練習を休んだこともあります。猛暑で試合ができなくなることなど考えたこともありませんでしたが、ここ数年は当たり前のこととなりました。そして現在は、新型コロナウィルスの影響で、日常生活が大きく変わってしまいました。サッカー界は、安全対策を熟考した上で、試合の機会を作ってくれました。

心と身体の健康のために、スポーツの重要性を感じています。42年ぶりの栃木での国体が無事に開催でき、選手が力を発揮できることを祈ります。

2021年度 高円宮杯栃木ユース(U-15)サッカーリーグを優勝で終えて

ヴェルディSS小山 監督 石田浩之

まず初めにコロナ禍の中でリーグ戦を円滑に運営してくださった3種委員会、審判、リーグ運営担当者の皆様に感謝致します。

コロナ禍の影響で練習も儘ならぬままリーグ戦を進める事となり選手のコンディション、今までの積み上げを更に構築していくことが非常に難しかった1年でした。

リーグ終盤では引き分けも許されない試合が続きましたが選手たちは見事そのプレッシャーを跳ね除け躍進し負け無しでリーグ戦を締め括りチームの目標であったリーグ優勝を手にする事が出来ました。



栃木シティ フットボールクラブアカデミー

U-18 監督 胡桃澤直喜

栃木シティフットボールクラブアカデミーは2019年に発足し今年で4年目を迎えることとなりました。発足時にはU-13の選手が14名、U-18では7名の選手が栃木シティを選んでもらいスタートすることになりました。この選手たちが当クラブアカデミーの1期生になります。U-18では7名しかおらず試合をすることもままならない状況でした。

それでもなんとか他高校サッカー部の先生方にお願いをし、試合をしていただきました。

1年目はそれでも8人になり県のリーグ戦に参加させていただきました。8人という上最低限の人数相手に公式戦をしていただいたチームの関係者には本当に感謝しております。選手たちはこのような状況の中でも人数を言い訳にせず暑い日でも寒い日でも常に全力で勝ちを求めてやってくれました。このような状況、環境の中で選手たちはどんな状況であれ常に勝利のため全力を尽くす。またサッカーをするために必要な仲間、相手、レフリー、関係者へのリスペクト。これらのサッカーでとても大事なことをこのような環境だからこそ身につけてくれたと思っています。仲間がいることが当たり前ではない、試合をしてくれる相手がいるのが当たり前では

ない。これは指導者として私も再度、大事なことを認識した1年目でした。2年目ではさらに選手が増え、そして昨年の3年目では23名の選手が栃木シティでプレーしてくれました。昨年はチームとして初めてクラブ連盟に登録し、クラブユース選手権に初出場しました。結果はグループリーグをなんとか1位通過しKOステージでプレミアリーグ所属の大宮アルディージャU18と試合をし、0-2で敗れました。

結果的には負けてしまいましたが今まで相手をしたことのないレベルのチームに対し臆することなく立ち向かった選手たちを心から誇らしく思います。また秋から冬にかけてはタウンクラブカップに初めて出場しました。この大会は全国の街クラブの大会で夏のクラブユース選手権でグループリーグを突破したことにより予選が免除。KOステージからの試合となりました。KOステージを2試合勝利し、関東6枠の全国大会出場を掴みました。全国大会は1月の末に大阪で行われ1回戦でセンアーノ神戸に残念ながらPKで敗れました。その後の順位決定では東北の塩釜FCに1-4、九州のONE SOUL.C福岡に3-0、最終戦では関東の大森FCに1-0。全体としては2勝2敗という結果でこの大会を終了しました。この大会に参加させていただいたことで選手個人としてまたクラブとしてこの経験値を次に活かす努力をしなければならないと感じました。

既に栃木シティアカデミーは4年目に突入しています。今まで以上にスピード感を持ってやっていかなければならぬと感じています。文冒頭で触れたように今年はU-13の1期生がU-18に入団し、今まで以上に大所帯になります。今まで在籍した選手たちの頑張りを次に繋げていかなければなりません。誰からも愛され応援されるチームを目指してこれからも頑張っていきたいと思います。今後とも栃木シティフィットボールクラブへの温かいご支援、ご声援の程よろしくお願ひ致します。



栃木県クラブユースを支えて

クラブユース審判員 西海石誠

クラブユースの審判員は、県内3種クラブチームで活躍している審判員で構成されています。

そのクラブユースを、長く最前線で牽引してきたお二人の審判員が2021年度の活動を持って勇退する事となりましたので、この場を借りて紹介します。

お一人は、昨年クラブ審判委員長に就任され、クラブの活動を支えてきた小島伸一さんです。小島さんは2級審判員として、クラブ審判員としてだけではなく、少年～社会人の試合まで県登録の審判員として幅広く活躍してきました。圧倒的な存在感で数々の試合をコントロールしてきました、一見怖そうな見た目ですが、暖かい人柄で後輩に対しても適切なアドバイスで、後進の育成にも力を入れてきました。

もうお一人が、前クラブユース審判委員長で10数年にわたり委員長を歴任され、長らくクラブを支えてこられた添田博さんです。添田さんも小島さん同様に県登録の2級審判員として、様々なカテゴリーで数々の試合をこなしてきました。添田さんは、見た目も優しい方で、見た目通りの人柄で信頼されています。試合では、その見た目と裏腹に、芯のある力強さでゲームをコントロールしてきました。また、クラブ唯一のインストラクター資格をお持ちの為、クラブ審判員の育成にも尽力し、私も2級昇格時に、様々な面から指導して頂き、添田さんの協力がなければ昇格する事はできませんでした。

昨年からのコロナの影響で、厳しい状況の中でも審判活動してきたお二人ですが、今シーズンで同時にピッチを去る事になります。お二人とも、プライベートな理由で勇退となります、どんな形でも良いので、審判活動は続けて頂きたかったのですが、あくまで審判はボランティア活動ですそれ以上引き留める事はできません、クラブ審判委員会としても私としても、その損失は図りしれないものがあります。

ただし、これからもクラブの活動は続いていきます、お二人が引っ張ってきたクラブの活動は終わりません、栃木から素晴らしい選手を輩出すべく、委員会も活動していくかなければなりせんただし、クラブ審判委員会の現状は、審判員が不足している状況です、クラブで審判員として協力して頂ける人数は減る一方で、ここ数年増えています。

2021年度は、各種別で仲間を増やすべく3級審判員育成のために、Web講習などを進め社会人から少年まで各種別で3級審判を育てています。クラ

ブも3種委員会と協力し、活動を始めましたがクラブからは参加はありませんでした。県の方針としては、そのカテゴリーで審判を育成し、試合の審判も割当する方向です。このままでは、クラブ各大会は全てチーム帶同で実施するしかなくなります、各チーム・選手育成だけでなく、審判員も輩出して頂き、このカテゴリーを盛り上げて行かなければなりません。栃木から世界につながる選手を輩出できるよう、クラブ登録チームには、審判員も含めて協力をお願いします。

また、クラブ審判委員会で審判を経験し、一緒に活動し昇級も目指したい方がおりましたら、積極的に参加をして頂きたいと思います。



シニア連盟

JFA 第20回全日本0-50 サッカー大会 栃木県開催

シニア委員長 福田 治

今年度のJFA第20回全日本0-50サッカー大会が、11月27日から29日までの3日間を栃木県宇都宮市のカンセキススタジアムとちぎ・栃木県総合運動公園サッカー場・河内総合運動公園陸上競技場・河内総合運動公園多目的運動広場の4面で、全国から16チームの予選を勝ち抜いたチームが参加しての大会であった。シニア年代の全国大会は栃木県としては初めての大会であったが、大会を運営するにあたっては、県内シニアチームの方々の協力により大会期間中には約140名に協力をして頂いた。会場準備、大会運営（ボールパーソン、担架隊、記録）、審判員、チーム対応と大会で行うことを各自マニュアルに沿って行っていた。役員として出席して下さった方々にお礼を申し上げます。

大会は、開催県出場の「栃木教員マスターズ」が参加しての16チームその16チームが4チーム4ブロックでの1次リーグで対戦し各ブロックの1位4チームが決勝ラウンドに進出する中で、栃木教員マスターズは初戦は逆転勝利をし1勝したが2日目の2試合は敗戦し1勝2敗でグループ4位となってしまった。試合自体は拮抗した試合であったが地元の理を生かせなかつた。決勝ラウンドは、四十雀クラブ東京50（関東）、ニコルスFCシニア（関西）、KUMAMOTO肥後シニア（九州）、兵庫サッカークラブ（関西）の4チームが進出し優勝は四十雀クラブ東京50になった。

大会を通して各チームが、こんな素晴らしいスタジアムで大会が開催されたことが良かったと話していました。シニア年代での全国大会でもこのようなスタジアムでの開催は初めてであり大会関係者等もよかったですといっていました。

栃木県で初めての開催で有意義な大会が開催されて関係者一同うれしく思っています。



2021/11/28



JFA 第20回全日本O-50サッカー大会

会場：2021年11月27日（土）～11月29日（月）

期日：カンセキスタジアムとちぎ

栃木県総合運動公園サッカー場

河内総合運動公園陸上競技場

河内総合運動公園多目的広場

1次ラウンド

グループ A

順位	チーム名	地域/都道府県	A1	A2	A3	A4	勝点	得点	失点	得失点差
4 A1	栃木教員マスターズ	開催地/栃木県		M1 ○ 3 - 2	M11 ● 0 - 1	M19 ● 0 - 1	3	3	4	-1
1 A2	ニコルスFCシニア	関西地域第1代表/大阪府	● 2 - 3		M20 ○ 1 - 0	M12 ○ 1 - 0	6	4	3	1
2 A3	徳島SFC	四国地域代表/徳島県	○ 1 - 0	● 0 - 1		M2 △ 0 - 0	4	1	1	0
3 A4	富一ふじの会	北信越地域第2代表/富山県	○ 1 - 0	● 0 - 1	△ 0 - 0		4	1	1	0

グループ B

順位	チーム名	地域/都道府県	B1	B2	B3	B4	勝点	得点	失点	得失点差
1 B1	四十雀クラブ東京50	関東地域第1代表/東京都		M3 ○ 1 - 0	M9 ○ 2 - 0	M17 ○ 0 - 3	9	6	0	6
2 B2	福岡とびうめシニアサッカークラブ	九州地域第1代表/福岡県	● 0 - 1		M18 ○ 4 - 0	M10 ○ 1 - 0	6	5	1	4
4 B3	マリソル松島タック50	東北地域代表/宮城県	● 0 - 2	● 0 - 4		M4 ● 1 - 4	0	1	10	-9
3 B4	岐阜kawasaki FC	東海地域第2代表/岐阜県	● 0 - 3	● 0 - 1	4 - 1		3	4	5	-1

グループ C

順位	チーム名	地域/都道府県	C1	C2	C3	C4	勝点	得点	失点	得失点差
3 C1	藤枝フットボールクラブ	東海地域第1代表/静岡県		MS △ 2 - 2	M15 ○ 2 - 2	M23 ● 0 - 1	4	4	4	0
4 C2	広島フォーティーズ	中国地域代表/広島県	△ 2 - 2		M24 ● 1 - 3	M16 △ 1 - 1	2	4	6	-2
2 C3	山梨マスターズ・レジェンド	関東地域第3代表/山梨県	● 1 - 2	○ 3 - 1		M6 △ 1 - 1	4	5	4	1
1 C4	KUMAMOTO肥後シニア	九州地域第2代表/熊本県	○ 1 - 0	△ 1 - 1	△ 1 - 1		5	3	2	1

グループ D

順位	チーム名	地域	D1	D2	D3	D4	勝点	得点	失点	得失点差
1 D1	兵庫サッカークラブ	関西地域第2代表/兵庫県		M7 △ 1 - 1	M13 ○ 2 - 0	M21 △ 1 - 1	5	4	2	2
3 D2	FC船橋50	関東地域第2代表/千葉県	△ 1 - 1		M22 ○ 2 - 0	M14 △ 0 - 0	5	3	1	2
4 D3	Docon Jack 50	北海道地域代表	● 0 - 2	● 0 - 2		M8 ● 0 - 2	0	0	6	-6
2 D4	アルフト安曇野シニア	北信越地域第1代表/長野県	△ 1 - 0	△ 0 - 2	○ 2 - 0		5	3	1	2

決勝ラウンド

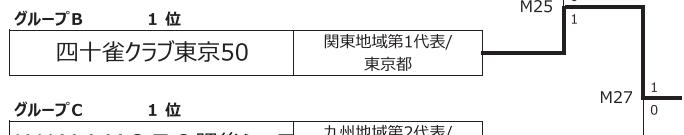
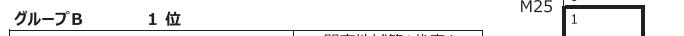
グループ A 1位

ニコルスFCシニア

関西地域第1代表/大阪府

0

1



グループ B 1位

四十雀クラブ東京50

関東地域第1代表/東京都

1

0



グループ C 1位

KUMAMOTO肥後シニア

九州地域第2代表/熊本県

0

1



グループ D 1位

兵庫サッカークラブ

関西地域第2代表/兵庫県

1

0





JFA 第20回全日本O-50サッカー大会

対戦カード

【会場】 カンセキ：カンセキスタジアムとちぎ 県サッカー：栃木県総合運動公園サッカー場
河内陸：河内総合運動公園陸上競技場 河内多目：河内総合運動公園多目的広場

会場	キックオフ	マッチNO.		対戦
1日目 11月27日(土)				
カンセキ	13:30	M1	グループA	栃木教員マスターズ A1 3 [0 - 1] 2 A2 ニコルスFCシニア
	15:00	M5	グループC	藤枝フットボールクラブ C1 2 [1 - 0] 2 C2 広島フォーティーズ
県サッカー	13:30	M2	グループA	徳島SFC A3 0 [0 - 0] 0 A4 富一ふじの会
	15:00	M6	グループC	山梨マスターズ・レジェンド C3 1 [0 - 1] 1 C4 KUMAMOTO肥後シニア
河内陸	13:30	M3	グループB	四十雀クラブ東京50 B1 1 [1 - 0] 0 B2 福岡とびうめシニアサッカークラブ
	15:00	M7	グループD	兵庫サッカークラブ D1 1 [0 - 1] 1 D2 FC船橋50
河内多目	13:30	M4	グループB	マリソル松島タック50 B3 1 [0 - 2] 4 B4 岐阜kawasaki FC
	15:00	M8	グループD	Docon Jack 50 D3 0 [0 - 0] 2 D4 アルフト安曇野シニア
2日目 11月28日(日)				
カンセキ	10:00	M9	グループB	四十雀クラブ東京50 B1 2 [1 - 0] 0 B3 マリソル松島タック50
	11:30	M13	グループD	兵庫サッカークラブ D1 2 [1 - 0] 0 D3 Docon Jack 50
	13:30	M17	グループB	四十雀クラブ東京50 B1 3 [2 - 0] 0 B4 岐阜kawasaki FC
	15:00	M21	グループD	兵庫サッカークラブ D1 1 [1 - 0] 1 D4 アルフト安曇野シニア
県サッカー	10:00	M10	グループB	福岡とびうめシニアサッカークラブ B2 1 [1 - 0] 0 B4 岐阜kawasaki FC
	11:30	M14	グループD	FC船橋50 D2 0 [0 - 0] 0 D4 アルフト安曇野シニア
	13:30	M18	グループB	福岡とびうめシニアサッカークラブ B2 4 [2 - 0] 0 B3 マリソル松島タック50
	15:00	M22	グループD	FC船橋50 D2 2 [1 - 0] 0 D3 Docon Jack 50
河内陸	10:00	M11	グループA	栃木教員マスターズ A1 0 [0 - 0] 1 A3 徳島SFC
	11:30	M15	グループC	藤枝フットボールクラブ C1 2 [1 - 0] 1 C3 山梨マスターズ・レジェンド
	13:30	M19	グループA	栃木教員マスターズ A1 0 [0 - 0] 1 A4 富一ふじの会
	15:00	M23	グループC	藤枝フットボールクラブ C1 0 [0 - 1] 1 C4 KUMAMOTO肥後シニア
河内多目	10:00	M12	グループA	ニコルスFCシニア A2 1 [0 - 0] 0 A4 富一ふじの会
	11:30	M16	グループC	広島フォーティーズ C2 1 [0 - 1] 1 C4 KUMAMOTO肥後シニア
	13:30	M20	グループA	ニコルスFCシニア A2 1 [1 - 0] 0 A3 徳島SFC
	15:00	M24	グループC	広島フォーティーズ C2 1 [1 - 2] 3 C3 山梨マスターズ・レジェンド
3日目 11月29日(月)				
カンセキ	10:00	M25	準決勝	グループA 1位 0 [0 - 1] 1 グループB 1位 ニコルスFCシニア
				四十雀クラブ東京50
県サッカー	10:00	M26	準決勝	グループC 1位 0 [0 - 1] 1 グループD 1位 KUMAMOTO肥後シニア
				兵庫サッカークラブ
カンセキ	13:00	M27	決勝	M25 勝者 1 [0 - 0] 0 M26 勝者 四十雀クラブ東京50
				兵庫サッカークラブ

2021年度 JFA 第22回 全日本0-60サッカー大会関東地区予選会 試合結果

【開催日】 2021年 11月28日(日)

【試合会場】 コーエイ前橋フットボールセンター
Aコート(西側) Bコート(東側)

【第1ブロック】



【第2ブロック】



【試合時間】 :40分(20-10-20)+PK戦

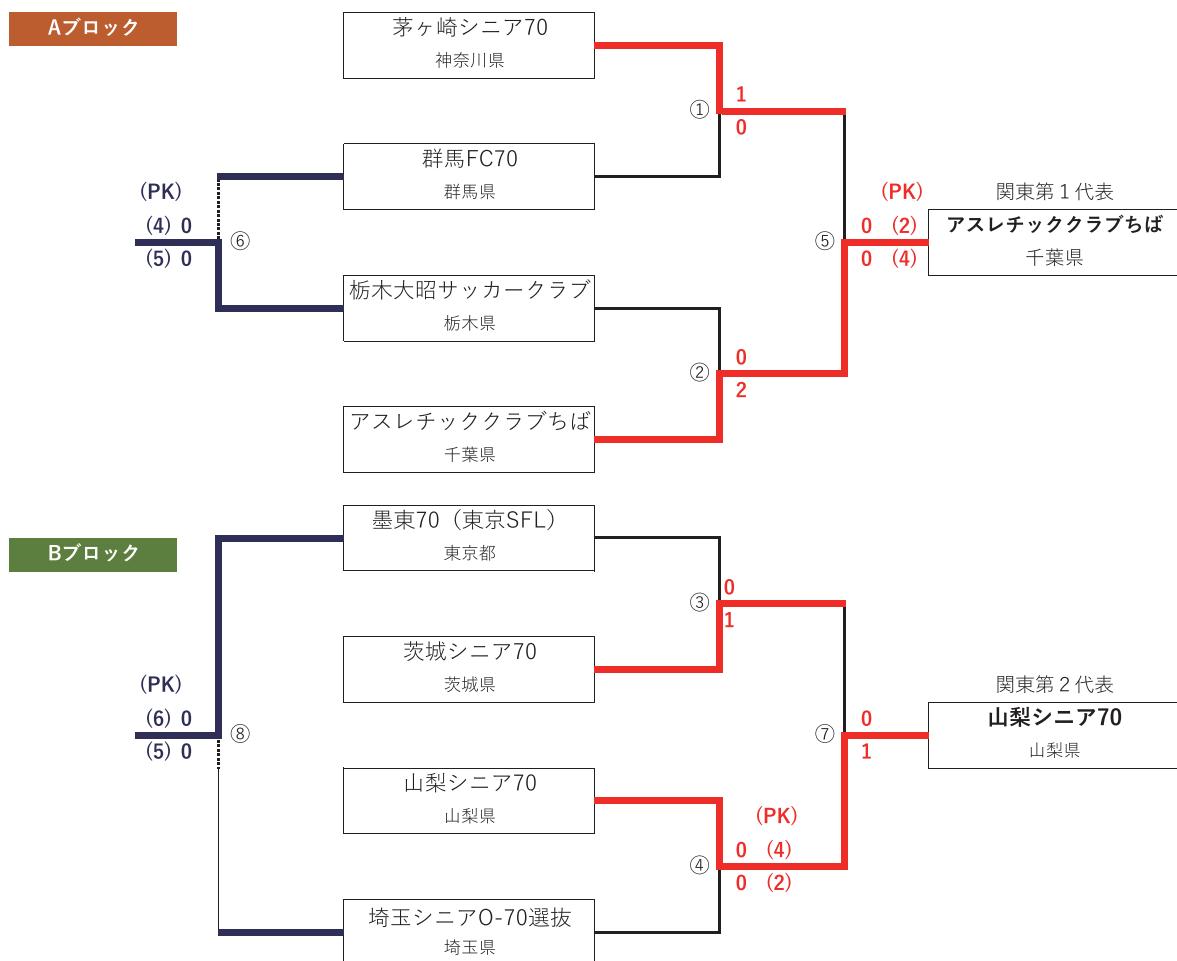
マッチNo.	試合会場	キックオフ時間	対戦カード							備考欄
①	A	10:00	渋谷区FCミドル60(東京都)	0 PK 4	VS 0 1	0	ドリーム水戸シニア(茨城県)			1組 1回戦
②	B	10:00	栃木大昭サッカークラブ(栃木県)	1 0	VS 0 2	2	山梨シニア(山梨県)			1組 1回戦
③	A	11:20	横須賀アズール60(神奈川県)	0 PK 3	VS 0 1	0	群馬FCレタドレス(群馬県)			2組 1回戦
④	B	11:20	千葉四十雀SC(千葉県)	2 0	VS 0 0	0	埼玉シニア60(埼玉県)			2組 1回戦
⑤	A	12:40	ドリーム水戸シニア	3 PK 5	VS 1 4	3	栃木大昭サッカークラブ			1組 敗者戦
⑥	B	12:40	群馬FCレタドレス	3 3	VS 1 0	1	埼玉シニア60			2組 敗者戦
⑦	A	14:00	渋谷区FCミドル60	2 1	VS 0 0	0	山梨シニア			1組 代表決定戦
⑧	B	14:00	横須賀アズール60	0 0	VS 1 1	2	千葉四十雀SC			2組 代表決定戦

JFA 第16回全日本O-70サッカー大会 関東地区予選会 大会結果

【開催日】 2021年11月13日（土）

【会場】 埼玉県：SFAフットボールセンター

組合せ抽選：2021.02.27



【試合時間】 40分 (20-10-20) 同点時：PK戦

match No.	会場	開始時間	対戦カード								備考	
①	東	10:00	茅ヶ崎シニア70 神奈川県	1	0 1	VS	0 0	0	群馬FC70 群馬県		A	1回戦
②	西	10:00	栃木大昭サッカーカラブ 栃木県	0	0 0	VS	1 1	2	アスレチッククラブちば 千葉県		A	1回戦
③	東	11:20	墨東70 (東京SFL) 東京都	0	0 0	VS	0 1	1	茨城シニア70 茨城県		B	1回戦
④	西	11:20	山梨シニア70 山梨県	0	0 0	VS	0 0	0	埼玉シニアO-70選抜 埼玉県		B	1回戦
4 PK 2												
⑤	東	12:40	茅ヶ崎シニア70 神奈川県	0	0 0	VS	0 0	0	アスレチッククラブちば 千葉県		A	代表決定戦
2 PK 4												
⑥	西	12:40	群馬FC70 群馬県	0	0 0	VS	0 0	0	栃木大昭サッカーカラブ 栃木県		A	Friendly
4 PK 5												
⑦	東	14:00	茨城シニア70 茨城県	0	0 0	VS	0 1	1	山梨シニア70 山梨県		B	代表決定戦
⑧	西	14:00	墨東70 (東京SFL) 東京都	0	0 0	VS	0 0	0	埼玉シニアO-70選抜 埼玉県		B	Friendly
6 PK 5												

フットサル連盟

フットサル大会にも不可欠 マッチコミッショナー奮闘

試合会場において全ての出来事を監督し、運営上の最終的な判断を行い、最終的に報告書にまとめて主催団体に報告するという責務を担う「マッチコミッショナー」。その制度はサッカーの試合同様に、フットサルにもあり、栃木県フットサル委員会の宮川進委員長、同連盟の石塚雅一理事長をはじめ、同連盟の桜井誠副理事長、山口雄二理事、井上和彦理事の5人がそのライセンスを保有しています。本県では関東フットサル委員会の要請を受けて、数年前に宮川委員長と石塚理事長がライセンスをまず取得。翌年に3人の役員がライセンスを手にしました。フットサルの場合、マッチコミッショナーは主に関東大会以上の公式戦に割り当てられ、宮川委員長と石塚理事長が中心となって関東各都県の大会に出向いています。現状を石塚理事長に伺いました。

国内フットサル界でマッチコミッショナーの充実がさけばれるようになったのは、フットサルの国内リーグ「日本フットサルリーグ（Fリーグ）」が契機となりました。2007年に開幕したリーグには当然、マッチコミッショナーが必要となりましたが、絶対数が不足していました。そこで数年後に「栃木でもマッチコミッショナーを養成するように」とのオファーが来て、私と宮川委員長がライセンスを取得、県外の試合まで出向くようになりました。

常に心掛けていることは、「試合全体の流れに気を配る」ということです。選手やベンチの動きを見ることはもちろんですが、審判がしっかり試



▲全国大会で試合を監督する石塚理事長

にも、厳しく目を配るようにしています。あくまで試合は「選手ファースト」です。たまに審判が中心になってしまうような試合もありますが、まずは選手主体のスムーズな試合進行が図られているかをチェックしています。

また審判の見えないところのファウルもマッチコミッショナーがチェックする必要を感じています。悪質なファウルを受けてけがをし、選手生命が短くなってしまう選手が出てしまうことは何としても避けなければいけません。「激しい試合」と「荒れる試合」は意味が違います。フェアプレーの試合をスケジュール通りに行うために、中心となるのがマッチコミッショナーだと感じています。

現在、私は関東フットサル連盟副理事長という立場にあるため、関東リーグを中心にマッチコミッショナーをしています。また2月には茨城県水戸市で女子フットサルの全国大会があり、宮川委員長と共に全国大会でもその役目を果たしてきました。

リーグのレベルを上げるためにには、マッチコミッショナーのレベルも上げないといけないと思っています。選手、審判、運営との共存共栄で大会を盛り上げる努力をしているところです。今年、栃木県内では大学やU-15の関東大会などが予定されています。これらの大会では他の理事のマッチコミッショナーとしての登板もあるかもしれません。

新型コロナ禍の2022シーズン 公式戦全日程を終了

サッカーと違い、フットサルは競技の特性上、公式戦の全てが体育館などの屋内施設で行われます。そのため他の競技団体と歩調を合わせながら、新型コロナウイルスに対応する県のガイドラインやその体育館独自の利用規定などを遵守しながら大会運営を行っています。新型コロナ禍になる以前から屋内施設の利用はすごくデリケートな問題で、施設内でサッカー関係者以外ともすれ違ったりするフットサルは、栃木県サッカー協会の各種別の中で新型コロナ禍に一番敏感に対応しているカテゴリーかもしれません。

2022年シーズンの下期も宮川進フットサル委員長の下、きめ細かく感染対策を定め、何とか各種公式戦を乗り切ることができました。

男女の栃木県フットサルリーグは前期リーグのみの実施となりましたが、前期日程は全て消化、順位づけまででき、男子1部優勝の三栄不動産FC宇都宮と、女子優勝のブラジニア・フットサル・

レディースは関東リーグへの参入戦に進むことができました。秋から始まる全日本選手権栃木大会も無事開催。シーズンオフのミニ大会も第6波にかかりましたが、感染対策を十分にして乗り切りました。

本県で9月に開催予定だった全日本女子選手権関東大会は、会場が確保できた山梨県甲府市で代替開催にこぎつけました。唯一の中止は第5波の緊急事態宣言中にかかったU-15大会だけでした。

新年度も「いちご一會とちぎ国体」の会場になる体育館があつたり、引き続きの新型コロナワクチン集団摂取会場になる体育館があつたりと、会場確保が厳しい部分はありますが、公式戦が全て実施できるよう、栃木県フットサル委員会と栃木県フットサル連盟は宮川委員長を中心に大会運営に邁進していきます。

女子連盟

関東女子サッカーリーグ 河内SCジュベニール復帰

関東地区の強豪大学、クラブの女子チームがしおぎを削る「関東女子サッカーリーグ」に、河内SCジュベニールが復帰することが決まりました。今年で28回を数える同リーグには、27年前の創設時に河内SCジュベニールが参戦し、数シーズン戦い抜いた歴史があります。今回は昇格枠が六つある中で、1月22日に茨城県の流通経済大RKUフットボールフィールドで行われた入替トーナメントを見事に勝ち抜きました。チームを率いて通算15年、大願を達成した泉文夫監督に入替トーナメントの戦いぶりと、新シーズンに臨む意気込みを伺いました。

さまざまな好条件が重なって、関東リーグへの復帰が決まりました。昨年は入替トーナメントで山梨学院大（山梨）に敗れ昇格はなりませんでしたが、今年はU-18女子の新設リーグの関係で、都県の昇格枠が6チームに広がりました。第1回リーグの時は創設されたばかりのリーグで各都県に自動的に1チームの昇格枠が割り振られそこでの関東リーグ参戦でしたが、今回は1試合とはいえ入替トーナメントを勝ち抜いての昇格となりました。

参戦するトップチームは高校1年生から、在籍22年目の“レジェンド”、36歳の佐々木香奈まで20人で構成されています。ジュベニールの中学生チームは栃木県リーグを戦っていて、高校生以上の選手たちが関東に挑むことになります。チームの持ち味でもある「パスとドリブルのサッカー」がどれだけ

通用するか、挑戦者の立場で強豪チームに向かっていきたいと思っています。粘り強い守備から、たくさんボールを奪い、どれだけショートカウンターに持ち込めるかが焦点です。また現在の関東リーグは大半を大学チームが占めます。数少ない「街クラブ」としても果敢に挑んでいきたいです。関東リーグで戦えたという経験は間違いない、その後の選手たちにとってはいい経験になるはずです。



▲昇格を決めた河内SCジュベニール

ジュベニールは完全なるチャレンジャーとしてリーグに臨むことになります。相手は強豪チームばかりですが、もちろん勝ちにいく試合をします。気持ちで負けないことも勝利には重要な要素になってくるでしょう。そこから選手たちは「自分に何が足りないか」を感じ取ることも大切です。チームの成長のためには選手たちにも「立ち向かってやっていこう」と話しました。1試1試合を全力で戦って、まずは残留に向けて頑張りたいです。

国際医療福祉大院生・松本さん 本県2人目の女性A級指導者に

宇都宮女子高で選手として活躍した宇都宮市出身の松本千晶さん（29）＝国際医療福祉大大学院在学中＝が2022年度に指導者A級ライセンスの取得が内定しました。本県の女性では手塚貴子さん以来2人目の上級ライセンス取得者となります。松本さんに今後の意気込みを伺いました。

指導者ライセンスは大学時代にC級を、都内で仕事をしていた時代にB級を取得して東京都トレセンにかかわっていました。東京時代に自薦で受講が可能なA級ライセンスの女子コースが初開催されることを知り、受講のハードルが下がったことと、将来ライセンスを生かしてサッカーにかかわりたい思いがあり挑戦を決めました。関係書類を提出、面談を

受けて受講が決定。帰郷後に1期生として1週間×前中後期（各1週間）の講義を受け、ライセンスの取得内定にこぎつけました。取得できれば、基本的にS級が必要なJリーグを除いた大半のリーグで監督を務めることができます。



▲地元チームで指導する松本さん

他薦でなく自薦で女子コースの1期生は23人いて、中には元なでしこジャパンの大野忍さんや山郷のぞみさんらがいました。ライセンス取得は大変でしたが、WEリーグのプロフェッショナル監督を目指すような方々と同じ目標に向かって同じ時間を過ごせたことは貴重な経験になりました。前期から男性のチームの指導実践を経験し、最後は11人対11人のゲームコントロールまでを経験しました。このほかにも暴力根絶、各ポジションの歴史、コミュニケーションの重要性なども座学を通して学びました。

最も刺激を受けたのは、講師役を務めた日本サッカー協会の影山雅永さん、小野剛さん、富樫剛一さんら経験豊富なインストラクター陣の講義でした。特に小野さんは私の担当メンター（相談役）でとてもお世話になりました。今後はこのライセンスを生かし、現在、かかわらせてもらっている栃木のトレセン活動などで頑張っていきたいです。また理学療法士の資格なども持っているので、その資格なども生かしながら栃木の女子サッカー界の発展に貢献できればと思っています。

グラスルーツ

グラスルーツ委員会より

委員長/手塚貴子

広報誌「SOCCER TOCHIGI」vol.100（100回）の発行、大変おめでとうございます。長きに渡り、栃木県のサッカー界を支えてきてくださった諸先輩方が築き上げてくれた賜物だと思っています。その諸先輩方の思いを引き継ぎ、今後益々栃木のサッカーを発展させるべく、尽力して参りたいと改めて感じました。

今年度発足したグラスルーツ委員会は、「JFAグラスルーツ宣言」の趣旨に基づき、だれもが、いつでも、どこでもサッカーを身近に心から楽しめる環境を提供し、その質の向上に努め、サッカーに触れるすべての人々を支え、サッカー、そしてスポーツが生涯にわたって生活の一部となり、より豊かなスポーツ文化を育むことを目的とし、新たな試みとして、各種別や他の委員会・連盟との連携を強化して栃木のサッカー全体の発展を目指します。

これまで県内の普及活動を支えてきてくださったキッズ委員会の方々をはじめ、女子の普及を支えてきてくださった女子連盟の方々や障がい者サッカーに関わってきてくださった方々などが築き上げて來てくれたことに感謝し、そこから更に後世に繋げていくことに積極的に取り組んでいく覚悟です。

新しい組織として始まったばかりで、更にコロナ禍も相まって、まだ本格的に機能させることはできていませんが、試行錯誤しながら丁寧にかつ大胆な施策も視野に入れて各種別、他の委員会や連盟の方々の意見を聞きながら、そして一緒になって取り組んでいきたいと思います。「オール栃木」でグラスルーツを考えていきましょう！！よろしくお願いいいたします。



グラスルーツ委員会2022スローガン

栃木サッカーの発展はグラスルーツから
～だれもがサッカーの楽しさに触れられるように～



グラスルーツ委員会報告 2021年度後期キッズ普及関連活動

キッズ部会 副部会長 大澤 寛之

◇コロナ禍での普及活動

～だれもがサッカーの楽しさに触れられるように～

栃木県でのサッカーの普及活動を最大限にする為に立ち上げた、栃木グラスルーツ元年でありましたが、昨年に引き続き新型コロナの影響で、イベントが中止を余儀なくされました。昨年度も厳しい状況ではありましたが、本年も同じ状況で落ち着いている時期に募集をしても、実施時期になると感染が増え安全を考慮し中止になってしまいます。このようにコロナ感染が一般の不特定多数の地区の異なる子供たちを集めることを難しくしています。これからイベントのあり方を見直し、変化をすることが必要になってきます。ご意見をいただきながら少人数で参加できるイベントなどを検討していきます。

◇JFAキッズフェスティバルIN栃木開催

そのような中ですが、11月に栃木シティさんの協力のもと初めて岩舟のシティグランドでフェスティバルを行いました。



落ち着いていたとはいえ、感染不安の中の開催だった為、万全の対策をし、活動を少人数のグループ単位で行うことで実施しました。県内の中でも素晴らしいグランドで、栃木シティさんとフェスティバルが開催出来て、参加者のみなさんから「楽しかった。次も参加したい」と、とても喜んでいただきました。



今回、指導者の方にキッズの活動を体験していただきたく、C・D級のリフレッシュ研修も行いました。午前中は講義を、午後はフェスティバルと一緒に参加していただきました。「普段とは違うカテゴリーの子供たちを教えているので難しかったが、得るものがあったので次も参加したい」という受講者の意見もありました。皆様も機会があれば是非参加してください。



◇ユニクロキッズ視察

皆さんにはJFAユニクロキッズサッカーをご存じでしょうか? JFA開催のU-6年代のサッカーフェスティバルになります。スペシャルゲストが来たり、アトラクションがあつたり、参加チームにはユニクロからTシャツがプレゼントされます。近県だと茨城、埼玉などで開催しています。本県でも開催することを視野に入れて視察させていただきました。今回は埼玉メットライフドーム開催の会場の視察をし、2部構成で参加人数は800人を超えておりました。

当団は県協会全体で取り組んでいて地元の男子高校生や女子大学生などのたくさんのスタッフで運営していました。開催にあたっての準備などはJFAでサポートがありますが、開催県の取り組みになります。数年後にはALL TOCHIGIで本県でも取り組み、県内で、ユニクロキッズを開催し参加できる機会を子供たちへ提供できるようにしていきましょう。

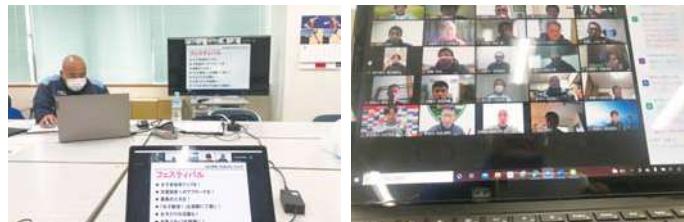


元日本代表の坪井選手

◇関東キッズ・全国キッズミーティング

本年度も関東キッズ・全国キッズのミーティングがリモート開催となりました。

今回もキッズ部会・指導普及部会のメンバーだけでなくユースダイレクターも参加することが出来ました。JFAの取り組みなどを各部会や技術担当者で直接共有することで、気づきが増え、負担を減らすことが出来ることは、リモート開催の良いところだと思います。



リモート参加

栃木のキッズ活動は今のところトヨタ巡回活動やフェスティバルの取り組みなど他県のキッズと比べてみても、引けをとらない活動が積極的に出来ています。

今後も県内で誰でもサッカーの楽しさに触れられるよう機会をつくっていきます。

この広報誌も100回となりました。これまでの諸先輩方や現在の関わる皆様の尽力があり栃木のサッカーファミリーがあります。私もまだまだ数年しか出来ていませんが、これからも栃木のキッズの活動を発信し、サッカーに関わる人の裾野を広げていきたいと思います。

2021年度後期女子普及関連活動

女子部会 部会長 大森 美幸

新型コロナ感染症がやや落ち着いていた11月に実施した3つの女子普及事業の活動報告となります。

また、2022年1月30日（日）に足利市陸上競技場で開催予定でした《JFA女子グラスルーツフェスティバル／ウォーキングフットボール》は新型コロナ感染症拡大の影響で残念ながら中止となりました。次年度また企画します。

◇中学生女子サッカーフェスティバル

11月21日（日）に県総合運動公園サッカー場にて、3種（中体連及びクラブユース連盟）所属の中学生を対象としたフェスティバルを開催しました。本来であれば、地区毎に分けて交流戦（年間2回開催）を企画していました。しかし新型コロナ感染症の影響で公式戦の日程の変更があり、参加できなくなった選手が多くいた為、練習会形式に変更し実施しました。



普段は男子と一緒にプレーしている選手たちが女子選手同士でトレーニングやゲームを経験することで、成功体験を得られた選手もいました。このような場を継続して作ることが必要であり、この活動がU-12年代から繋がり、そして高校生年代へ繋がる活動となるようにしていきたいと思っています。

◇JFAガールズサッカーフェスティバル2021栃木／女子グラスルーツフェスティバルin宇都宮

11月23日（日）に河内総合運動公園陸上競技場にて親子のサッカーフェスティバルを開催しました。「サッカーをやってみたい女の子、運動不足のお母さん・お父さん親子でサッカーを楽しみましょう。初心者大歓迎！」と近隣の小学校に案内を配布したところ、50組以上の応募がありました。当日参加できた45組（子どもの参加は47名）の内、41名はサッカー未経験（未登録）者でした。今回初めて締切日前に定員に達したことを考えると、コロナ禍などで、外で思いきり遊ぶこと体を動かすことによどもだけでなく大人も飢えているのではないかと感じました。



当日のフェスティバルでは初心者の親子でも一緒に楽しく簡単に出来るボールを使ったメニュー中心に行いました。参加した子どもたちは、初めてフェスティバルに参加し、親と一緒にボールで遊ぶことが楽しそうでした。そしてボールがあれば、家や公園などでも簡単にできるので親子で一緒に続けられそうでした。

今回それを後押しするべく、当日使用したサッカーボールを参加した親子にプレゼントしました。もちろん子どもたちは大喜びでした。このフェスティバルに参加した中の1人でもサッカーを始めるきっかけになればと思います。

今回のように、フェスティバルで参加者を楽しませることで普及をすることはもちろんですが、サッカーを続けたくなるような「仕掛け」が必要だと思っています。今の栃木で女子がサッカーを続ける場が少ないのも事実です。もちろん各地区やチーム、なでしこ広場など頑張っていただいているが、環境がまだ少ないのも事実です。種別を越えた環境作りに取り組み、もっとこの普及事業を各種別に繋げる工夫をしなければならないと痛感しました。



◇JFAガールズサッカーフェスティバル2021栃木／U-12女子地区交流戦

11月28日（日）県グリーンスタジアムサブグラウンドにて、4種登録でサッカーをしている小学生女子に焦点を充て、県内の地区トレセンを母体とした、地区交流戦を開催しました。今回ゲーム形式で実施しましたが、大会ではないので、事前に下記2点を指導者と選手に伝えました。

1つ目はゲームの勝ち負けだけでなく、女子同士

で出来るサッカーを楽しんでもらいたいこと。

2つ目は技術面で普段は上手く発揮できないことにチャレンジをして成功体験を積んで欲しい、ということでした。

どのチームも個人でチャレンジすることや、チームで楽しくなる方法などを見つけ、ゲームをしてい



ると思いました。また、低学年の参加人数は少なかったのですが、その中で参加できた子どもたちは、たくさんゲームが出来て1日で上達が見えました。

今後は、低学年の参加者をもっと増やし、低学年の女子だけのゲームの時間を設けてその中でたくさんの成功体験をしてもらいたいと思います。

これまで女子連盟の方々中心に積み上げてきた女子の普及活動を更に良いものにするためにグラスルーツ委員会女子部会として、県内の女の子・女性がサッカーをやりたい、続けたいと思った時に、身近にサッカーができる環境を、キッズ年代から4種、3種／（2種含む）女子の各カテゴリーへ橋渡しが出来るように縦の繋がりを全体で持ちたいと思います。

技術委員会

第15回栃木県フットボールカンファレンス 【オンライン】を開催して

令和4年2月12日（土）に第15回栃木県フットボールカンファレンスを初めてオンラインで開催した。テーマは「栃木県サッカーの普及・育成・強化を考える」～とちぎ国体を契機とした飛躍の年にするために～と題し、県内外約200名の指導者が参加した。

内容は以下のとおりだった。

- (1) オープニング
- (2) 基調講演 「世界とアジアの中の現在地」
～世界のトップ10を目指して～
U-19日本代表監督 富樫 剛一 氏

(3) 発表

- ①グラスルーツ委員会の取組
(公社) 栃木県サッカー協会グラスルーツ委員長 手塚 貴子 氏
- ②いちご一会とちぎ大会（全国障害者スポーツ大会）に向けて
栃木県知的障害者サッカー選抜 監督 梁木 直人 氏
- ③いちご一会とちぎ国体に向けた取組 成年男子
栃木県成年男子 監督 堀田 利明 氏
- ④いちご一会とちぎ国体に向けた取組 少年男子
栃木県少年男子 ヘッドコーチ 神山 和泰 氏
- ⑤いちご一会とちぎ国体に向けた取組 少年女子
栃木県少年女子 監督 久保田 圭一 氏
- ⑥栃木県内少年（4種）サッカー事情
4種技術委員長 金井 理 氏
- ⑦栃木県内中学（3種）3種トレセン活動について
3種技術委員長 伊奈川 正通 氏
- ⑧栃木県内ユース（2種）サッカー事情
(公社) 栃木県サッカー協会 技術委員長 川上 栄二 氏

(4) クロージング

まずははじめに、JFA富樫氏より基調講演いただき、映像やデータを用いて「日本とアジア・世界の現在地」や「世界のトップ10」に入るために必要な要素、指標を御教示いただいた。U-22代表チームの話の中には、法政大学から川崎フロンターレに入団した矢板中央高校出身の松井選手も取り上げていた。

その後の発表では、今年栃木県で行われる「いちご一会とちぎ国体・いちご一会とちぎ大会」の国体成年男子、少年男子、少年女子、そして全国障害者スポーツ大会の栃木選抜各監督（及びヘッドコーチ）に、これまでの強化策や今後大会にどのように向かっていくのかなど、映像を用いての解説や表やグラフで示していただいた。

とちぎ国体に向けて、栃木県のサッカー指導者が考え方を共有し、一丸となって向かっていくきっかけになったと考える。

また、国体関係だけでなく、グラスルーツ、各カテゴリーの指導者からも発表していただいた。栃木のこれからサッカーを、まさに下の年代から種を蒔き、育成し、強化していく、そして生涯にわたりサッカーに親しむ、そんなイメージを皆様と共有できればと考え、このようなプログラムとした。

初めてオンライン開催ということで、どのような展開になるか多少不安もあったが、チャットや直接質疑応答で発表者と受講生が意見交換するなど、オンラインでも意見交換することができた。課題もあったが、コロナ禍でもこのようにフットボールカンファレンスが開催できたことは良かったと考えている。



ここまでが、栃木フットボールカンファレンスのことであるが、ここからは、私が当日までに感じたこと、学んだことを記載させていただきたい。

1 オープンマインド

今回のフットボールカンファレンスはこれまで通り、集合型の開催を計画していたが、12月の時点で、オンライン開催に変更になった。これまで描いてきたプランはあったが、御意見をいただき、変更することとした。

聞く耳を持つこと、柔軟性が大事だと感じた。（こだわりも大事だが）

2 分析力

オンライン開催でも、受講生が興味関心を持ち、学ぶことができる内容は何か、また、意見交換するためにはどうしたら良いか（質疑応答の仕方）など、とちぎ国体・大会に触れることや大会を契機とした普及・育成・強化について考える内容は何かを考えた。

3 プランニング

オンライン開催を成功させるのに、当日から逆算して（ゴールからの逆算）タイムスケジュールを組む。スムーズにプログラムが進むように役割を明確にし、配置を検討した。

4 オーガナイズ

組織をどう作るか。（今回は12月時点で、技術委員会内にフットボールカンファレンスの企画運営部という少人数の組織を立ち上げた。）また、オンライン開催のための場の設定、物品の準備や配置をどうするかなどを考えた。

5 マネジメント

JFAの講師との打合せ（オンラインでの打合せ）、県内発表者との打合せ（2回のシミュレーション含む）、スムーズな進行（司会進行：高井ユースダイレクター）のための打合せなど、全て根回しが大事だった。当日万が一映像が映らなかつたり、zoomがうまく起動できなかつた時の対応（リスクマネジメント）や当日の参加者管理、Googleフォームでの事後アンケート作成なども依頼や調整が大事だった。

この1～5までの項目は、B級やC級指導者養成講習会で普段扱っている要素と同じであり、当たり前と言えばその通りだが、当たり前を突き詰めることも大切な要素で、やはり指導者が集う場では、指導者に求められる要素は同じだと感じた。

次回の栃木県フットボールカンファレンスは2年後の2024年に開催予定だが、それまでに指導者講習会等を通じてこれらの要素を高め合えるよう指導者仲間同士で力を合わせて進んでいきたい。

2年後の栃木県フットボールカンファレンスでまた会いましょう。



栃木県中体連女子育成強化練習会を開催して～栃木県中体連サッカー専門部の取り組み～

栃木県中体連サッカー専門部委員長
御子貝 和亮

栃木県中体連の中には、約70名の女子選手がおり、その選手の女子同士の活動の場がないことが課題でした。このようなことから、何とか中学校のサッカーチームに所属している女子選手を集めて活動できないかと、指導者養成部チーフインストラクターの楳氏と相談し、栃木県中体連女子育成強化練習会を開催しました。会場はリアンビレッジ矢板（とちぎフットボールセンター）で、令和3

(2021) 11月28日(日)、12月12日(日)の2日間で行いました。

栃木県も他FAで開催されている中体連女子の事業同様、普段男子中学生と一緒に活動している女子中学生同士のサッカー活動の機会創出及び女性指導者を養成することを目的に開催しました。

開催状況は以下のとおりです。

- 第1回 11月28日(日) 選手14名 スタッフ4名
(中学校サッカーチーム顧問4名)
- 第2回 12月12日(日) 選手12名 スタッフ3名
(中学校サッカーチーム顧問3名)

参加者の中には、女子だけのこのような合同練習会は初めてということもあり、緊張した選手が多くたですが、指導者のアイスブレイキングにより、徐々に緊張も和らぎ、笑みもこぼれました。

グループでのキックやパス＆コントロールの練習後、ハーフピッチのゲームを行いました。

技術の高い選手も未熟な選手もチームメートと協力し合いゴールを目指しました。何よりもゲームを楽しんでいる姿が印象的でした。

参加した選手からは、「初めは緊張したが、他校の選手と一緒にプレーできて楽しかった」「普段女子のみでプレーすることがないので、女子同士でプレーできて良かった」「指導者が技術のポイントやゲームの行い方を教えてくれて楽しかった」という感想がありました。

今後も継続して行い、新年度からは月1回のペースで定期的にレギュラー化して行えるように計画を進めていきたいと思います。

○指導者コメント

- ・楨 剛 (公社) 栃木県サッカー協会指導者養成部チーフインストラクター

今回中体連の先生方とともに開催することができて良かったです。

栃木県の女子の中学生年代（中体連）の課題は、男子選手との活動はあるが、女子同士での活動が少なく、女子の中でのサッカーの楽しさを知る前にサッカーから離れてしまったり、小学生の女子選手達が中体連の活動を知らないため、中学生年代でサッカーから離れることがありました。

このような活動が、改めてこれらの課題解決に向けての第1歩になれば良いと考えます。

また、女子選手を指導できる女性指導者の養成も重要であり、第1回には2名、第2回には1名の女性指導者（中体連のサッカーディレクター）に参加していただきました。この人数もさらに増やしていきたいと考えています。

○参加者コメント

- ・女子同士で行うサッカーは、いつもとは違う楽しさがありました。男子と行う時よりも自分のプレーがしっかりできて良かったです。
- 技術的には、パスの基本のところで、「ボールを蹴る足首を固定する」「ボールに当てる面をしっかり向ける」などを教えてもらい、上手にボールを蹴ることができました。
- ・他の中学校から参加している選手のプレーを見て、ドリブルが上手な選手が多いと感じました。

上手な選手が自チームでもスタメンを取っていると聞いて、自分もがんばらないといけないと思いました。

また参加したいです。



2021年JFA公認ゴールキーパー レベル1コーチ指導者講習会栃木 FAコースの開催について

47FAインストラクター 細井 晓

2020年まではJFAコースとして年間10コース定員300名で開催されていたゴールキーパーレベル1指導者講習会が、2021年度より各都道府県FAで開催することができるようになりました。今回、FAコースを開催するために手を挙げたのは、11FAでした。

今までJFAコースが全国で10コース（300名）が毎年開催されていましたが、なかなかJFAへの一括の申し込みで、希望していても受講ができないことが多くありました。また、関東コースも栃木県では那須スポーツパーク、茨城県の鹿島ハイツスポーツプラザにて宿泊型で開催されていましたが、受講料に加え、宿泊費、交通費が別途必要になることも課題でした。今回のFAコースは、4日連続の日程で、通い型で開催しました。開催期間中、近隣のホテルに宿泊している受講生もいましたが、受講者の経済的負担を減らすことができたのではないかと思います。今後は、日程についても受講生が参加しやすいように平日開催ではなく、土、日開催などを検討していきたいと思います。また、初めてのFA開催のために、JFAコースより受講料が高くなってしまったことが課題ですが、今後、その点については検討し、改善できるようにしていきたいと思います。

インストラクターは、JFAより2021年8月に開催された東京オリンピックでなでしきジャパンのGKコーチであった大橋昭好氏、栃木FAからはLIAALL GK ACADEMY代表の楠本晃義氏に務めていただきました。楠本氏は、栃木FA GKレベル1インストラクターとして、2020年度よりインストラクター研修を受けていただきました。以前にJFAGKインストラクターを務めていたこともあり、今回の講習会の運営にも御尽力いただきました。2022年度よりJFAコーチに就任されましたが、今後も継続して、GKインストラクターを務めていただく予定です。

11月18日（木）～21日（日）までの4日間で、リアンビレッジ矢板（とちぎフットボールセンター）を会場に実施しました。受講者は、県内の指導者12名（GK経験者6名、未経験者6名）での開催となりました。年齢も21～56歳と幅広い方々に受講していただきました。指導しているカテゴリーも小

学生年代から社会人まで様々でした。

講義では、GK理論、GKの一貫指導、トレーニングの構築について等、実技では、インストラクターによるデモンストレーション、受講者によるテクニック、ゲームの指導実践を行いました。受講生によるゲームの指導実践では、宇都宮商業高校サッカー部の生徒に補助プレーヤーとして参加していただきました。監督の梁島将光教諭は、GK出身の指導者ではありませんが、県内では5名しかいないGKレベル3の指導者資格を取得しています。また、コーチの樋口友和教諭は、長年、ゴールキーパープロジェクトのサブチーフとして、活動していただいているいます。受講者の振り返りアンケートでは、「GK経験者ではないが、今回受講して、GKへの理解を深めることができたので、是非今後の指導にも生かしたい。」「選手として経験をしてきて、テクニックについて理解しているつもりであったが、今回の受講を通して、一つ一つ整理することができた。」という声をいただきました。今回、運営として、開催に携わり、インストラクターの補助をさせていただきましたが、熱心に取り組む受講生の姿、インストラクターの両名の適切で整理された指導の様子を近くで見ることができ、プレーを分析する力、わかりやすく伝える力を身につけることが重要であることを感じました。また、ゴールキーパーの役割を理解し、選手たちを改善することができるようこだわりを持つことも重要であると感じました。

今回、初めてとなるFAコース開催は、受講生をはじめ、インストラクター、補助プレーヤーの宇都宮商業高校サッカー部の生徒、会場のヴェルフェ矢板のスタッフの方々のご協力のおかげで、無事に開催することができました。本当にありがとうございました。

今後もゴールキーパーレベル1コーチ養成講習会のFAコースを開催することで、より多くの指導者に取得する機会を創出することができ、受講しやすい環境を整え、今後も指導者資格の取得を推進していきたいと思います。また、選手にとっても、GKをより専門的に指導を受けることができる環境を整えていくができるようにしていきたいと思います。栃木をGK王国にできるよう取り組んでいきたいと思います。

受講定員は15名となります、FAコースの開催を継続するために積極的に受講していただければと思います。是非、ご興味がある方は、受講をよろしくお願いします。

栃木県ゴールキーパー プロジェクトについて

技術委員会 ゴールキーパープロジェクトチーフ
細井 晓

日頃より、技術強化委員会ゴールキーパープロジェクトへの御協力ありがとうございます。ゴールキーパープロジェクトでは、育成年代のゴールキーパーの育成、強化、指導者養成に取り組んできました。昨今の新型コロナウイルス感染症対応のため、事業を中止にせざるおえない状況もありましたが、肃々と事業を実施してきました。

今年度まで、ゴールキーパープロジェクトでは、普及、育成・強化、指導者養成の事業を実施してきました。普及では、GKクリニックということで、U13～U15年代を対象に、サンエコ自然の森サッカー場を会場に、年間8回のトレーニングを実施してきました。

育成・強化では、県トレセンU13（中体連、クラブ）、U14（中体連、セントラル）、U15（中体連、セントラル）に選考されている選手などを募集して、GKトレセンを年間5回開催してきました。また、指導者養成では、関東トレセンコーチ研修会（GK）の落とし込みなどを実施し、関東GKキャンプU13・U14へ指導者を派遣してきました。GK指導者ライセンスの取得推進もしてきました。2016年度にGKレベル3が1名、GKレベル2が10名、GKレベル1が18名という現状からGKアクションプランを策定して、2022年度の目標値をGKレベル3が3名、GKレベル2が15名、GKレベル1が30名としました。2021年度には、GKレベル3が5名、GKレベル2が14名、GKレベル1が39名となっている。2021年度からは、GKレベル1コーチ養成講習会をFAで開催することができるようになりました。今後も、GKがより良い環境で、より専門的な指導を受け、成長していくことができるよう取り組んでいきたいと思います。

ゴールキーパープロジェクトでは、2022年度より新たな取り組みを行います。普及事業として取り組んできたGKクリニックを、2022年4月より3年間、栃木県内でGKスクール事業を展開する株式会社LIALL（代表取締役社長 楠本晃義）と業務委託契約を行うこととなりました。今まででは、サンエコ自然の森サッカー場で年間8回の活動を行い、県内各地から参加していただいていましたが、距離が遠いため通うことができない選手がい



たり、保護者の方々に送迎で負担をかけたり、U12年代への事業がないことが課題でした。今回、県内各地でGKスクール事業を展開し、各スクールで年間24回の指導を展開するLIALL GK ACADEMYと業務提携することで、小学生年代からU16までを指導対象に、より専門的な指導を受けることができる機会を創出することができ、トレーニングも年間カリキュラムに沿って指導を受けることができるようになります。また、地域の指導者の指導現場の見学などを受け入れ、指導者の養成にも御協力いただける予定です。

将来的に、ゴールキーパープロジェクトの活動を発展させるために、新しい取り組みを行います。そして、選手にとっても、指導者にとっても、持続可能なより良い活動ができるようにしていきたいと思います。

審判委員会

サッカー競技規則 (Laws of the Game) の不思議

(公社)栃木県サッカー協会審判委員会委員長
JFA1級審判インストラクター
鈴木武明



日本サッカー協会、Jリーグでは、サッカー、スポーツの社会的役割を強く自覚して、2008年度より、サッカー界におけるリスペクトの重要性を認識し、リスペクトプロジェクトを開始しました。従って、このプロジェクトが開始されてから、もう15年近くがたちます。競技規則のあちこちにもリスペクトの文字を見受けます。

リスペクトプロジェクトの中に『グリーンカード制度』というのがあります。JFAは、U-12（4種）年代以下の試合において、グリーンカードの積極的活用を奨励しています。（グリーンカード自体は2004年度からJFAによって導入された制度。ちなみにレッドカードが正式に使われたのは1968年メキシコオリンピックからです。）

今回の挨拶文はその文言を読み直しながら紹介させていただきます。（JFAホームページ リスペク

ト・フェアプレーより）

サッカーは人生の学校です。この素晴らしいゲームは、楽しいばかりでなく、感情を呼び起こすものです。負けた時には悲しみと涙、勝ったときには歓びと祝祭。サッカーは教師です。サッカーは少年少女に人生の徳と価値を学ぶ機会を与えます。

- ・チームとしてともに努力すること
- ・フィールド上で互いに助け合うこと
- ・常にフェアプレーを示すこと
- ・良いスポーツmanshipを示すこと
- ・怪我をした者を助け共感を示すこと
- ・敗者も勝者も称えること
- ・対戦相手、チームオフィシャル、レフェリーに敬意を払うこと

これらの価値感は全て家庭や共同体のメンバーの中での日常生活にもあてはまるものです。

サッカーは、プレーヤーの身体面、社会面、心理面の要素の発達を助けます。ゲームは世界中で毎日ひっきりなしに、無数の試合がプレーされています。その大多数は楽しみのためのものです。

レフェリーは、試合のルールの守り手です。レフェリーは、ルールが尊重され全員がゲームを楽しめるようにします。レフェリーにはイエローカードとレッドカードを使って、その行為がルールにどの程度、違反しているということをプレーヤーに伝えることを任務として与えられています。これらのカードは、ある特定の選手等のネガティブな行動が、フェアではなく、どの程度許されないか、ということを説明するために示されるものです。

レフェリーはそれらを示し、フィールド上で22名のプレーヤー全員に対しフェアとなるように努めています。ポジティブな教育はこどもたちがサッカーを始めたときから、我々は彼等にスキルを教えるとともに、「してはいけないこと」も教えます。時として、トレーニングや試合ではいけないことの方に注意が払われる事が見受けられますが、彼らがポジティブなことをしたら賞賛や感謝を示すべきです。これが、グリーンカードの背景にある考え方です。

グリーンカードの意味は以下の通りです。

- ・それは良い行動である。その調子で続けなさい。
- ・ポジティブな行動を再確認、再強化する。
- ・ポジティブな教育である。
- ・認め、感謝し、もっとやるよう励ます。
- ・他の人が見本とすべき手本である。
- ・ファンやオフィシャルもあなたの行動を認め評

価している。

グリーンカードは以下のような行為に対して提示されます。

- ・怪我をした選手への思いやり
 - ・意図していないファウルプレーの際の謝罪や握手
 - ・自己申告（ボールが境界線を出たとき：スローアイン、CK、GK、ゴール）
 - ・問題となる行動を起こしそうな味方選手を制止する行為
 - ・警告も退場も受けず、ポジティブな態度を示す。
(レフェリーは試合終了の笛を吹く際に、チームベンチに向かってカードを提示する)
- JFAはグリーンカードの積極的活用を通じて、フェアプレーを広めていきます。

皆さんも一度は読んだことがある文章だと思いますが、再び読んでみていかがでしょうか？U-12（4種）年代に限ったことではないし、その考え方方は我々の集団生活そのものに反映できるものだと感じます。「サッカーって偉大なスポーツだなあ」と改めて感じます。一日の振り返りの折、「今日の自分の行動は褒められたものだろうか？あのときの態度は？車の運転は？同僚への配慮は？上司への言動はどうだったか？」と考えさせられます。もちろん、子供ではないので、それが良かったとしても「素晴らしい行動だったね！」と声をかけてもらえることもありません。だいたい公平に判断してくれるレフェリーの監視もないでの自己嫌悪か自己満足ですかね。（一人でニヤリですか）

昨年、一昨年と新型コロナウイルスによってサッカー自体をする機会が失われました。今年（2022/01/13現在）になって徐々に制限も解除され、改めてサッカーに関われる喜びを感じています。そんな今ですから、改めて競技規則についても復習して以前とは違う何かを発見してください。

～サッカー競技規則は読み込むほど新しいことを発見する不思議な書物だそうです。～

栃木県協会に移籍して

サッカー2級審判員 森田秀一

初めまして、2021年度より千葉県から栃木県サッカー協会に移籍をしてまいりました森田です。私の出身は埼玉県ですが、進学した大学が千葉県に

あり、そこで審判資格を取得しましたので、審判員としては生まれも育ちも千葉県でした。これからは栃木県での活動を通じて、みなさまに栃木の一員と認めてもらえるように活動していきたいと思っております。

現在は、関東強化審判員として1級昇格を目指して栃木県および関東圏内で活動させていただいておりますが、他にも日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー（JSPO-AT）として競技種目を超えて色々なフィールドで活動をしています。JSPO-ATは、アスリートからスポーツ愛好家の方まで幅広い対象に、傷害予防やパフォーマンスの回復や向上に向けたコンディショニングなどの支援をしています。みなさんもご存知のとおり、審判員は、プロでない限りは他に職業があり、時間がない中で自身と向き合ってコンディションを維持しています。この現状を踏まえて、サッカー審判員はサポートされるべきアスリートの部類に位置づけられると私は考えます。こうした中で、審判員+JSPO-AT+研究という組み合わせで、何か審判員の特性に応じてできることはないかと考えています。私にとって、審判活動・JSPO-ATの活動・研究活動の全てが面白く好きな活動ですので、ぜひどこかの機会で審判だけでなく、サッカー関係者の皆様と協力し、栃木から発信できるユニークな取り組みをしていきたいと思っています。

さて、栃木県に移籍してみてということですが、何よりの印象は「人のあたたかさ」です。以前よりアセッサーとしてお世話になっていた方々もそうですが、初めてお会いする方からも声をかけていただくことが多くあります。もちろん審判員だけではなく、栃木県のチームにも大学時代の知り合いや先輩方も多くいるので、グランドでお会いできる機会は非常に嬉しく感じています。その中でも審判活動は、サッカーに関わるだけでなく、他職種～学生の方と「同じ目的を持って」試合に望むという、他に例をみない面白い活動だと思います。特に、インストラクターや先輩審判員の方々など、人生経験の多い年上の方と接する機会は貴重であり、その機会を通じて審判員十人として成長したいと常々思っています。現在お世話になっている方だけでなく、これから初めてお会いする方も、グランドで一緒にさせていただいた際には、まだまだ20代の若輩者ですので、お手柔らかにご指導を宜しくお願ひいたします。



2級取得直後の1枚(写真中央が筆者)



一番右が筆者

第55回関東社会人サッカー大会

2級審判員 阿久津 駿

関東社会人サッカー大会は今大会で55回目を迎える、1位がエリース東京、2位がヴェルフェ矢板で、ベスト4のうち2チームが栃木県代表チームという、栃木県勢の素晴らしい結果と活躍で幕を閉じました。このような歴史に残る大会に、私は審判員として参加させていただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。

今大会は、新型コロナウイルス感染症の万全な対策を行ったうえで、11月6・7・20・21日の日程で群馬県にて開催され、それに併せて11月5日～7日に関東審判研修会が行われました。

大会前日の夕方に集合し、全体で大会要項の確認や関東の審判インストラクターによる講義を受けて、大会を成功させる一員としての自覚と覚悟、心構えを再認識しました。大会初日の審判割当を確認し、この大会で初めて主審を担当することになりました。うれしさとやる気が溢れ出たのと同時に、緊張や不安もありながら前日の夜を過ごしました。

大会初日の朝は体調がよく、リラックスした状態でした。しかし、キックオフ時刻が近づくにつれて身体が緊張していくのが感じられました。コロナ渦

で無観客であるものの、独特の雰囲気と緊張感が試合会場に広がっていました。試合中はその雰囲気に流されないように意識したために、表情には緊張や動搖は出ませんでしたが、内面では試合の雰囲気に負けていました。選手の気持ちに寄り添うことができず、試合のコントロールを自分で難しくしていました。この大会での初めての主審は、苦しい内容で終わってしまいました、ひどく落ち込みました。その中で、私に声をかけてくれたのが審判員の仲間でした。都県や先輩後輩関係なく、私の話を聞いたり相談にのったりしてくださいました。様々な経験をもとに、アドバイスや改善策を聞くことができ、大変勉強になりました。インストラクターからのご指導で学ぶことが多いですが、先輩の審判員から直接学べることも多いことを実感しました。

大会2日目は、第4の審判員を務めて、研修会が終了しました。

今大会の研修会への参加を通して、各都県代表の勝敗をかけた緊張感のある試合の雰囲気を主審として肌で感じられたこと、審判仲間の存在のありがたさを実感できたこと、インストラクターや他県の審判員から多くの意見を聞けるなどの研修会に参加する意義の新たな一面を発見できることを学ぶことができました。ここで学んだことを糧にさらなるレベルアップに努め、日本サッカーや栃木県のサッカーに貢献できるようより一層精進してまいります。



イントレに参加して

サッカー2級審判インストラクター
岡安 友一

2021年12月4日～5日の両日、プラクティカルトレーニングをテーマとした審判インストラクタートレセン(以下、イントレ)に参加しました。

イントレは、審判員のパフォーマンス向上をサ

ポートするインストラクターのスキル向上を目的とした事業であり、イントレのパートとして「チュータリング」・「アナリシス」・「IT」・「フィジカル」・「プラクティカル」の5部門からなります。

私としては昨年度アナリシス、そして本年度は、4月～5月のチュータリングから始まり、10月～11月のITに続き3つ目のイントレ研修となります。一気に詰め込んでも…という思いも若干ありましたので、今回のプラクティカルトレーニングのイントレについては、最後まで参加すべきかどうか迷ったのも事実でしたが、レフェリースタートアップセンターの仲間の後押しもあり参加を決意しました。

今回イントレの受講生参加者は、栃木県：5名・茨城県：1名・千葉県：1名の計7名です。

1日目の12月4日は、宇都宮市上河内地区市民センターにて講師から、プラクティカルトレーニングの特性やプランニングシート作成方法の講義を受けた上で、翌日の12月5日は、河内総合運動公園陸上競技場で実際に白鷗大学サッカー部員及び栃木県派遣審判員の協力を頂き、受講生が3つの班に分かれたうえで各テーマに基づいてのプラクティカルトレーニングの実践を行いました。実践は1つずつの班が、①仕込み 15分、②実践 20分、③振り返り・まとめ 10分の流れで行いました。

インストラクターになって2年目のシーズンとなります。このようなイントレ研修等を経験させて頂き、少しずつ手ごたえも感じながら一インストラクターとして取り組んでおります。年が明けた2月にもプラクティカルトレーニングのイントレが実施されます。参加者各自で、テーマに基づいてのプランニングシートを作成し、改めて競技者及び審判員に協力を頂いての実践を行います。

講師の方も、5つあるイントレパートの中でもプラクティカルは、人も場所も費用も一番掛かると申されていたのは印象的でしたし、確かに…と大いに思うところでした。



写真中央が筆者

最後になりましたがこの場を借りて、栃木県審判委員会・関東審判委員会・ご協力いただいた審判員・チーム関係者、そしてインストラクター仲間の方々に感謝いたします。

ありがとうございました。

サッカー2級審判 インストラクターに昇格して

サッカー2級審判インストラクター・2級審判員
鈴木 翔

2021年10月2日（土）に競技規則テスト・プレゼンテーション・映像分析テストが行われ、さらに10月16日（土）に関東大学リーグ2部の試合を用いて、主審に対するふり返りとアセスメントレポートの作成を行う実技試験があり、無事に合格し、サッカー2級審判インストラクター（SI2）に昇級することになりました。

2017年度よりSI3として活動を始めました。1級審判員への道がなくなってから、2級審判員として活動しつつ、これまで2級審判員として関東の研修に参加させていただいた栃木県や私が所属する高体連に何ができるかということを考えていたのがきっかけでした。審判員として活動するだけでなく、これまで研修などを通して学んだことを還元するにはインストラクターの資格が必要ではないかと思いSI3を取得しました。

審判員としてもインストラクターとしても活動をすることは、これまでの経験や学んだことを整理することにつながりました。しかし、インストラクターとしては、その試合を担当する審判員を評価して、指導することはやはり難しいものです。それはSI2を受験することになり、そのために指導を受け、勉強をしていくほど、難しさを感じていました。それは昇格をした今でも感じています。次の試合に向けて何を改善すればよりよいパフォーマンスにつながるかを試合全体から抽出し、試合終了後の審判員のふり返りでのやりとりを通してそれをアセスメントレポートとして点数をつけ、コメントを記載していくますが、試合中にさまざまな事象が起きた中で課題点を抽出すること、人によって見え方が異なることがある事象や対応を点数として出すことも難しいのですが、その審判員のためにインストラクターとしての見え方を受け入れてもらい、次への改善に導くことはさらに難しいものです。

以前は、試合後にインストラクターから指導を受けるものは「反省会」と言われていて、どちらかというとインストラクターから一方向のコメントでした。私がSI3を取得するあたりから「反省会」から「ふり返り」や「フィードバック」となり、試合の中の事象を審判員にふり返りをしてもらう中で、インストラクターから事象分析する上で考慮事項を投げかけ、審判員の対応や処置が正しかったか、どうすればよかつたかを審判員に考えさせるものに変わっています。シンプルに言えば、teachingからcoachingになっているということです。思い返せば、2010年度に審判員として関東審判トレセンに参加したときに自己分析の重要性について指導を受けており、その数年後に参加したインターハイ全国大会や2019年に参加したクラブユースU15全国大会ではグループごとに自分たちでふり返りと改善策を考える形式になっていたので、10年くらい前からその流れになっていたかもしれません。

今後の活動は関東での活動も増えてくるだろうと思いますが、栃木での活動も更に頑張っていこうと考えています。具体的には、私の所属する高体連から3級や2級になる審判員やインストラクターを増やしていくことです。それによりユース審判員の質を向上させることにもつながってきます。また、関東や栃木県から1級審判員を出したり、審判員の質を向上したりすることに寄与していきたいと考えています。

昇格試験受験の際には、SI3強化研修会が行われ、事象の分析、ふり返りの方法、レポート作成の仕方について先輩SI2の方々からご指導やアドバイスをいただきました。また、実際の試合を用いてふり返りやレポート作成を行い、それに対しても手厚いご指導をしていただきました。試合を担当した審判員とご指導いただいたSI2の皆様には改めてこの場をお借りしまして御礼申し上げます。



写真中央が筆者

2級審判員として更なるステージへ

サッカー2級審判員 鈴木 達也

昨年、9月末の試合を指導者の方々に見て頂き県審判員会から推薦を頂いたのち、10月末に初めての2級昇格審査に臨みました。競技規則テストは開始数分間、頭が真っ白になってしましましたが何とか持ち直して記述問題をすべて書くことが出来ました。フィットネステストは自信があったので無事にクリア出来ました。結果がわかるまで多少時間が掛りましたが12月末に鈴木審判委員長から合格の報告を頂き、暫し安堵しました。2級審判員として2022年シーズンから関東社会人リーグや関東プリンスリーグなど県外での試合や県内の社会人県1部リーグなどの試合に関わることができますと思うとわくわくしています。しかし実力の世界であり2級審判員として「試合の流れを大切にしながら、一貫した的確な判定基準によるゲームコントロールを追及する」を出来なければ割当が頂けなくなると思います。そのために前段の事柄を遂行するため、日々のトレーニングや競技規則の理解度を上げて新シーズンを迎えることを願っています。また今年は国体があります。国体の審判員として選んでいただける様に努力を続けたいと思います。ここまで来るのに、息子の成長と共に各カテゴリーで審判をしてきて多くの方と関わり多くのことを教わってきました。また私の担当した試合には指導者の方々が来て頂き、アドバイスを頂くことで成長できました。覚えの悪い自分を根気よく見て頂いた指導者の皆様、お互い声を掛けあって切磋琢磨出来る審判仲間、審判活動を理解して送り出してくれる家族に感謝して栃木県サッカーの更なるレベルアップに貢献したいと思います。



2級審判員になって

サッカー2級審判員 杉山 峰夫

私は、サッカー審判資格を新規取得して10年になります。活動の主は4種少年サッカーであります。当時はサッカー競技規則も儘ならず、審判員としても初めての経験がありました。その後、宇都宮少年サッカー連盟審判委員会という組織があることを当時、息子がお世話になっていたチームの池田代表からお聞きし、自分も審判員としての技量をあげて何か役に立ちたいと思う一心で参加させていただくことになりました。

宇河4種審判委員会では、竹腰氏をはじめ色々な方々にご指導していただき、2014年に3級審判員に昇級できることになりました。その後は栃木県4種審判委員会、高瀬委員長のもとで経験を積ませていただきました。

私が2級審判員になりたいと思い始めたのは、この4年後の2018年奥澤氏と館岡氏との出会いがあってからになります。私は4種の試合しか経験がなく、1種の試合で副審を初めて担当し、同じ審判員としてもこんなに違うものかと思い、館岡氏に割当をしていただき、先輩方のレフェリングを見て聞いて審判員としての技量向上を図っておりました。その2018年にある種別の全国大会が栃木県で開催され、私たち4種審判員も参加させていただけることになり、緊張しながら会場入りをした時のことです。突然大きな声で「杉山さん！」と声をかけてくださったのが奥澤氏でした。最初は驚いたような、それほど大きな声で会話をしたことを、いまでも鮮明に覚えております。

それからは、奥澤氏の指導の下、沢山の試合で失敗を繰り返し、時には厳しい言葉をかけていただき、4種審判員でも2級に昇級できるということを、学ばせていただきました。私が大きな怪我をしたときも、本気で心配していただき、また本気で叱っていただいて本当にありがとうございました。

2021年10月栃木県審判委員会から推薦を頂き、河内総合運動公園にて試験が開催されました。競技規則テスト・体力テスト共に栃木県審判委員会の皆様にサポートしていただき、何とか合格することができました。栃木県審判委員会の方々に、この場をお借りして深謝申し上げます。

今後も4種を軸に、多種の方々と審判活動に励んでいき、また競技規則の勉強、トレーニングを

行い、的確で公平公正なジャッジができるよう努力していきたいと思います。

宇河4種審判委員会も倉井氏と荒木氏にサポートしていただき、新しく審判活動を始められる少年連盟の父兄の方々にも、楽しんで審判ができる環境つくりに努めてまいります。「リスペクト」、競技の「精神」を肝に銘じてこれからも一緒に活動していただける審判員を増やせるよう自分を見つめ直し、また活動していきたいと考えております。

最後になりますが、私に関わっていただいている全ての皆様にお力添えいただき心から感謝申し上げます。今後も微力ながら、栃木県のサッカーに貢献していく所存でございます。



奥澤氏と担当した試合にて
(左から筆者、奥澤氏、黒澤氏、倉井氏)



左が筆者。右が荒木氏

サッカー2級審判員に合格して

サッカー2級審判員 前川 範一

この度、昨年10月23日 栃木県河内総合運動公園で行われた2級昇格審査会において、合格する事ができ、晴れて51歳にして2級審判員に昇格した事をご報告いたします。

私は息子がサッカーを始めるのを機に2009年に4級審判を取得、2011年に3級審判を取得しました。また、2018年には3級インストラクターの資格を取得させていただきました。主に4種で審判活動をしております。また、栃木県サッカー協会の派遣審判員としても活動しております。

今回昨年7月に、秋に行われる2級審判昇格審査への推薦の話を頂きました。正直なところ51歳という年齢で2級審判員としてやっていけるのか?体力的にも厳しいのではないか?と、とても悩みました。ですが、今回の2級昇格審査の推薦者の3名は4種で一緒に審判員として活動を行ってきた仲間である杉山峰夫氏と鈴木達也氏です。特に杉山峰夫氏とは同じ年齢です。杉山氏が2級昇格にチャレンジしている姿を見て、折角頂いたチャンスなのだから自分も頑張ってチャレンジしてみようと思いました。また、インストラクターの方からは「もう2級は手の届くところに来ています。あとは本人の意識、気持ち次第ですかね。チャンスは多くありません。チャンスを逃がさないでください。」と言うメールも頂きました。また、指導者や審判仲間からも背中を押していただいた事で、最後のチャンスだと覚悟を決め2級昇格を目指し奮起し、無事に2級審判員となることが出来ました。また、3人揃って2級審判員に合格する事ができ、大変嬉しく思います。



左から2番目が筆者

今後は2級審判員のワッペンの重みを感じ、サッカーの魅力を最大限引き出せるようチャレンジしていきます。

最後になりますが、日頃からお世話になっている鈴木審判委員長をはじめ、4種委員会高瀬委員長、県審判委員会の皆様、審判員の皆様、サッカーファミリーの皆様に感謝し、栃木県のサッカーの発展に貢献出来るよう日々精進して参りますのでどうぞ今後とも宜しくお願ひいたします。

3級審判インストラクターを取得して

サッカー3級審判インストラクター
大山 晃一



サッカーの審判員として県社会人リーグで活動し、早15年が経ちました。数年前より指導者の方々から3級審判インストラクターを取得してみてはどうかと勧められていましたが、自分自身、現役審判員にこだわりたかったことや、サッカー審判員として普段指導を受ける立場の者が指導者なんて絶対ありえないと思っており、有難いお話を伺ったのにもかかわらず丁重にお断りをしておりました。

私は、宇都宮社会人サッカー審判委員会にも所属しており、委員会の大先輩から「審判は内側から、インストラクター・アセッサーは外側から試合をみることになる。見える景色が違うはず。それを審判に活かせると良いのではないか」とのお言葉を頂いたことや、毎年4月に4級サッカー審判断新規取得講習会に先輩のサポートをしていた時にインストラクター資格を持っていない私は先輩インストラクターのサポートに限られており、何もできない自分が申し訳なく思っていたこと、大好きなサッカーに今後も様々な形で関わりたいことや栃木県のサッカー技術の向上に少しでもお役に立てればとの思いから、この度3級審判インストラクターを取得する決意をいたしました。

3級審判インストラクターについて色々調べてみると、「審判員の養成、育成及び審判技術の向上を目的に審判員を適正に評価するための基準の確認、競技規則の解釈、指導ポイントの共通理解」とありました。栃木県では毎月インストラクタートレセンも開催されていることを知り、昨年11月、初めてインストラクター研修会に参加しました。講義で

福島Jヴィレッジで全国大会開催

～第54回全国高等専門学校 サッカー選手権大会～

(一社)全国高等専門学校サッカー連盟理事
上野 哲

【はじめに】

新型コロナウイルス感染第5波がほぼ終息した2021年12月14日～17日まで、(公財)日本サッカー協会主催第54回全国高等専門学校サッカー選手権大会が福島県双葉郡楢葉町のナショナルトレーニングセンターJヴィレッジで開催された。

この期間は、たまたまデルタ株の蔓延が終息する一方でオミクロン株の感染拡大が始まる前の落ち着いた時期で、幸運に恵まれた(12月15日～17日まで、福島県内での新規感染者は0名)。とはいえ、コロナ禍での全国大会運営に伴う難しい対応を、昨年度に引き続き今大会でも強いられた。

今年は栃木県で第77回国民体育大会(いちご一會とちぎ国体)が開催されるが、コロナ禍での大会運営について、以下の記録が少しでもお役に立つがあれば幸いである。



ナショナルトレーニングセンターJヴィレッジ

【大会運営について】

本大会はもともと8月30日～9月3日に同会場で開催予定であったが、この期間は北は宮城県から南は沖縄県まで全国20道府県で緊急事態宣言が発令されていたため、12月に延期された。延期によって主管校の福島工業高等専門学校や主管協会の(一財)福島県サッカー協会、会場をご提供いただいた(株)Jヴィレッジには多大なご迷惑をおかけしたにもかかわらず、今大会では完璧なご対応をいただき、感謝の言葉しかない。



主管校の福島高専には、保護者やチーム関係者の観戦を1チーム40人に限定したこと、事前提出してもらったリストの管理や会場入口での照合など、膨大な煩瑣な作業をこなしていただいた。また観客数の制限をしたため、来場できない観戦希望者に向けてYou Tubeで試合をライブ配信していただいた。

(一財)福島県サッカー協会には、特に審判員派遣にご尽力いただき、準決勝と決勝の主審として現役の国際審判員を派遣していただいた。

さらに(株)Jヴィレッジには、なでしこジャパン(女子日本代表)の合宿中止により急遽空いた天然芝フィールドの使用を許可していただいたおかげで、ホテル4階から撮影した俯瞰的な動画の配信が可能となった。



You Tubeでライブ配信された決勝戦



風雨が強まる悪天候の中撮影してくれたスタッフ

【出場チームについて】

大会は鹿児島高専が29回目の優勝を果たし、5連覇を成し遂げて終了した。昨年度準優勝の近畿大学高専が初戦敗退する波乱もあったが、80分間しっかり走って中盤のセカンドボールを拾い、サイドからのクロスボールを中心で決めきる技術とポジショニングに優れた選手が多くいるチームが勝ち残った。さらに特筆すべき点として、鹿児島高専が優勝と同時にフェアプレー賞(懲戒罰が最も少ない)

も受賞したことが挙げられる。「フェアで、タフで、強いチーム」を体現したことは、無条件で賞賛に値する。

本大会はコロナ禍の影響で昨年来冬季の開催となっているため、体力の消耗が夏季に比べて少なく、出場したチームのほとんどが前線の高い位置からプレスをかけてボールを奪おうとしていた点が、今大会の特徴としてあげられる。

本県から出場した小山高専は、残念ながら昨年度3位の福井高専に1-3で力及ばず初戦敗退した。一方、関東地区からのもう一つの出場校である群馬高専は細かくボールをつなぎ、攻守の切り替えを素



関東代表の小山高専(立川甚吾氏撮影)



1回戦: 小山高専vs福井高専(立川甚吾氏撮影)

早く行う堅実なスタイルを貫いて勝ち上がり、第3位となった。

高専サッカー界は以前より「西高東低(西が強く、東が弱い)」の傾向が見られるが、今大会でも1回戦を終えた時点で勝ち残った8チームのうち、東海北信越より北東のチームは群馬高専だけであった。関東・東北・北海道地区の出場校のレベルを上げていくことは以前にも増して、高専サッカー界全体のレベルアップを図るうえで重要な課題となっている。



1回戦：小山高専vs福井高専（立川甚吾氏撮影）



決勝戦：鹿児島高専vs新居浜高専

【審判団について】

今大会では、大会史上初めて女性の国際審判員に主審を担当していただいた。準決勝及び決勝戦の主審を担当して下さったのは宮城県所属の杉野杏紗さん。彼女は女子1級資格だけでなく、（男女の区別がない）1級審判員としても日本サッカー協会から認定されており、2021年から国際審判員として活躍している。「早いスピードとゲーム展開に慣れるために積極的に男子のゲームの主審を担当させてもらっている」とのこと。特に準決勝の宇部高専対新居浜高専戦では、高いコミュニケーション力を発揮してキックオフ前から両チームのベンチスタッフを味方につけ、開始直後から圧倒的な走力と、先読みをベースにした適切なポジショニングにより「この人が主審なら、このゲームは安心だ」という雰囲気を前半の早い段階で作ることに成功していた。

この試合で印象的なことがもう1点あった。審判チームを組んだ4人のうち、2人が福島高専出身の審判員だったことだ。福島高専は今大会には開催校としても出場しており、残念ながら初戦敗退した

が、この2人以外にも福島高専には上級審判員を目指す部員がいた。福島高専出身で今回審判割当も含めて非常にお世話になった2級審判員の國谷亮介さんはその理由を「地元のいわきサッカー協会に審判員の勧誘と育成に熱心な方がいて、その方が根気強く目にかけてくれたお陰です」と仰っていた。若手審判員育成法の王道を教えられた気がする。

なお、今大会にはウェルフェアオフィサーの派遣はあったものの、審判インストラクターの派遣はなかった。



準決勝と決勝の主審を担当した杉野杏紗氏



副審の2人は福島高専出身の審判員

【コロナウイルス感染の影響】

今大会では、試合後に37.5°C以上の高熱を出した選手を抱えるチームが試合を棄権した事例が1件発生した。筆者が監督を務めるチームでも昨年同様の理由（大会前日に学校関係者の感染が発覚したため、出場辞退）でやるせない思いを味わっているため、その無念は想像するに余りある。

当該チームは初日に1回戦を戦い勝利したが、その日の夜、試合に出場していた選手が発熱した。すぐに引率教員の車に隔離し、PCR検査を受けられ

る市内の医療施設を探したが夜間であり見つからなかった。そのため、薬局で購入した簡易キットで検査したところ、結果は「陰性」であった。しかし今大会の規定及びJFAの指示は「医療関係者立ち会いのもとでPCR検査を実施し、陰性証明が必要」であったため、翌朝9時半キックオフの1回戦には間に合わず、最終的には出場辞退となった。

大会期間中の出場辞退は、宿舎キャンセル料等、莫大な出費がかさむため、例えば大会期間中は会場近辺の医療機関と契約を交わし「24時間PCR検査を受けられるようする」など、少しでも出場辞退の可能性を減らす対策を運営側も講じる必要がある。また財源的には難しいかもしれないが、宿舎キャンセル料の一部を運営側が負担するなど、「大会参加チームや運営スタッフに迷惑はかけられない」という理由で、正直に申告してきた当該チームの高い倫理感や誠実さに対して、少しでも報いる努力が必要だと感じた。

【フレンドリーマッチについて】

全国高専サッカー選手権独自のイベントとして、公式戦と同時進行で実施している「フレンドリーマッチ」があげられる。大会開催期間中は会場を一括で借り上げることになるが、大会が進むにつれて試合数が少なくなっていくため、1回戦でしか使わなかつたピッチが空いたままになり、せっかく借りている会場が無駄になる。加えて全国から多数のチームが集まっているにもかかわらず、1回戦敗退チームは1度試合をしただけで地元に帰ることになり、さらに試合に出られなかつた1年生など下級生は一回もピッチでボールを蹴らずに会場を去ることになる。

そのような状況を改善するために、先達の高専サッカー連盟役員が大会期間中のフレンドリーマッチ開催を発案し、発展的に継続して現在に至っている。審判は各チーム持ち寄りで、ユニフォームの規定もない。敗退チームだけでなく、勝ち残っているチームも参戦可能で、選手登録されておらず応援に来ている下級生を中心に出場するチームも多い。参加希望チームは前日の夜までに「午後、帰路につくので13時までに3試合やりたい」「できるだけ（自チームの所属都道府県から離れた）○○地方の高専と対戦したい」などの要望を連盟役員に伝えれば、担当役員が組合せカードやキックオフ時間、会場をうまく調整して割り振りする。筆者には到底無理だが、こうした割り振りを即座に行える頭脳優秀な役員（高専教員）が連盟には多数いるので、非常に心強い。



大会期間中毎日行われたフレンドリーマッチ

【おわりに】

福島県での全国大会開催は、昭和52年以来2度目となる。今回はとりわけ、2011年の東日本大震災以後初めての福島県での全国大会開催ということもあり、大きな意味があった。Jヴィレッジの周辺には、車で少し移動できる距離にいまだに帰還困難区域がある。また、周辺では津波による壊滅的な被害を受けて街が移転したことによってできた広大な更地も見られた。

恵まれた環境に身を置くと、つい「サッカーができる環境は当たり前に存在する」と錯覚してしまいがちである。しかし再び災害が起これば、また疫病が猛威を振るえば、自由にサッカーができる環境はアツという間になくなってしまうことを私たちは経験してきた。改めて「当たり前を、当たり前と思わないこと」を若い選手たちに実感してもらえたことも、今回の福島大会の大きな産物だったと思う。

最後になるが（公財）日本サッカー協会、ナショナルトレーニングセンターJヴィレッジのスタッフの皆さん、（一財）福島県サッカー協会、福島工業高等専門学校、大会参加チーム関係者の皆様に改めて心より感謝を申し上げたい。



津波の被害により更地となつた場所

医事委員会

サッカー選手に多い「Jones 骨折(第5中足骨疲労骨折)」の話し

医事委員 飯島裕生

<Jones(ジョーンズ)骨折とは?>

第5中足骨疲労骨折のことでサッカー選手に多い障害として知られている。1902年に英国の Jones 医師により報告されたためこのように呼ばれる。繰り返すサイドステップによるストレスの集中により疲労骨折が生じる。20歳前後の男性に発生することが多い。国内外を問わず多くの有名なプロサッカー選手が受傷し、手術治療を受けている。発生頻度は高校生、大学生のサッカー選手 100人中、2-3人と言われる。Jones 骨折は予防すること、完全に骨折となる前に発見し治療を行うことが非常に重要となる。

<Jones 骨折の症状・診断>

プレー中やプレー後に足部外側(小指側)に痛みが生じる。完全に骨折を起こさなければプレーは可能である。骨折をすると局所の痛みが増悪し、歩行も困難となる。

診断はレントゲン、CT、MRIなどの画像診断で行う。レントゲンは角度を変えて撮影することで骨折線を見逃さないようにする。CT や MRI はレントゲンで分からないような初期段階で診断が可能となることがある。



図1 Jones骨折
骨の模型とレントゲン写真
(赤矢印が骨折部)

<Jones 骨折の治療>

○治療は大きく分けて、保存治療と手術治療がある。

保存治療…完全に骨折していなければ、運動制限、インソール(足底板)、超音波治療(自宅で1日20分骨折部へ超音波照射、保険適応に関しては医療機関に要確認)、運動療法(リハビリ)などがある。

手術治療…完全な骨折では、保存治療での骨癒合では時間がかかり、再骨折のリスクもあるため手術治療が勧められる(手術はスクリューでの固定)。特に早期復帰を希望するアスリートには手術が推奨される。個人差はあるが、ジョグは術後6-8週、競技復帰までは約3か月かかる。

<Jones 骨折で知っておいてほしいこと>

- ・人工芝は骨折リスクが高い(人工芝は摩擦力が大きく、足が引っかかりやすく足部外側に負担がかかる)。
- ・股関節内旋(がに股の逆の動き)の硬さ、臀部筋力(特に中殿筋)・足底筋が弱いと足部へ負担がかかる。
- ・ランニング時はスパイクからランニングシューズへ履き替えて足部の負担を減らすことが望ましい。
- ・プレー中の足部外側の痛みが続く時は(2週間以上)、早めに病院で診察を受ける。

<予防のための運動療法>



図2 セラバンドでの中殿筋の筋トレ



図3 体幹と中殿筋の筋トレ



図4 左股関節内旋ストレッチ
右踵部で左膝を上から圧迫

図5
左大腿外側のストレッチ
大腿外側を柔らかくして
股関節を内旋しやすくなる
右股関節は深く曲げる



図6
タオルを足底でつかむ
足底筋のトレーニング
足部の安定化を図る



図7
足底筋のトレーニング 2
母指と小指は浮かさずに示指中指環指を持ち上げる

<参考文献> 第5中足骨疲労骨折(Jones骨折)の予防、齋田ら、別冊整形外科 2018

第5中足骨近位骨幹部疲労骨折(Jones骨折)、スポーツ整形外科学、文光堂 2020

広報誌「SOCER TOCHIGI」発行の歴史

No.	西暦	和暦	月	日	名称	ページ	仕様	トピックス(表紙タイトル)
1	1977	52	11	21	サッカー砺木	8	B5判、手書き	創刊。森山欽司会長挨拶からスタート
2	1978	53	5	20	サッカー砺木	14	B5判、手書き	
3	1978	53			サッカー砺木	8	活字印刷になった	
4	1979	54			サッカー砺木	8		
5	1979	54			サッカー砺木	8		
6	1979	54			サッカー砺木	8		
7	1979	54			サッカー砺木	8		
8	1979	54			サッカー砺木	8		
9	1980	55			サッカー砺木	8		
10	1980	55			サッカー砺木	8		
11	1980	55			サッカー砺木	8		
12	1980	55			サッカー砺木	8		
13	1980	55			サッカー砺木	8		
14	1981	56			サッカー砺木	8		
15	1981	56			サッカー砺木	8		
16	1982	57			サッカー砺木	8		
17	1983	58			サッカー砺木	8		
18	1983	58			サッカー砺木	8		
19	1983	58			サッcker砺木	8		
20	1983	58			サッcker砺木	8		
21	1984	59			サッcker砺木	8		
22	1984	59			サッcker砺木	8		
23	1984	59			サッcker砺木	8		
24	1985	60			サッcker砺木	8		
25	1985	60			サッcker砺木	8		
26	1986	61			サッcker砺木	8		
27	1986	61			サッcker砺木	8		
28	1986	61			サッcker砺木	8		
29	1986	61			サッcker砺木	8		
30	1987	62			サッcker砺木	8		
31	1987	62			サッcker砺木	8		
32	1987	62			サッcker砺木	8		
33	1988	63			サッcker砺木	8		
34	1988	63			サッcker砺木	8		
35	1988	63			サッcker砺木	8		
36	1989	64/1			サッcker砺木	8		
37	1989	1			サッcker砺木	8		
38	1989	1			サッcker砺木	8		
39	1989	1			サッcker砺木	8		
40	1990	2			サッcker砺木	8		
41	1990	2			サッcker砺木	8		
42	1991	3			サッcker砺木	8		
43	1991	3	10	1	サッcker砺木	8		
44	1992	4	1	15	サッcker砺木	8		
45	1992	4	4	1	サッcker砺木	8		
46	1992	4	10	20	サッcker砺木	8		
47	1993	5	3	3	サッcker砺木	8		
48	1993	5	7	21	サッcker砺木	8		
49	1993	5	10	10	サッcker砺木	8		
50	1994	6	2	1	サッcker砺木	12		
51	1994	6	6	1	サッcker砺木	8		
52	1994	6	10	20	サッcker砺木	8		
53	1995	7	2	25	サッcker砺木	8		
54	1995	7	10	1	サッcker砺木	8		
55	1996	8	3	10	サッcker砺木	8		
56	1996	8	12	1	サッcker砺木	8		
57	1998	10	3	25	サッcker砺木	16	サイズが4判に変更	
58	1999	11	3	1	サッcker砺木	16		
59	1999	11	7	30	SOCER TOCHIGI	8		
60	1999	11	12	11	SOCER TOCHIGI	8		
61	2000	12	6	1	SOCER TOCHIGI	8		
62	2000	12	11	11	SOCER TOCHIGI	8		
63	2001	13	6	26	SOCER TOCHIGI	6		
64	2001	13	11	30	SOCER TOCHIGI	6		
65	2002	14	6	10	SOCER TOCHIGI	6		
66	2002	14	12	16	SOCER TOCHIGI	8		
67	2003	15	6	14	SOCER TOCHIGI	8		
68	2003	15	12	20	SOCER TOCHIGI	12		
69 - 70	2005	17	1	20	SOCER TOCHIGI	16	フルカラー、表紙登場	審刊登録2005年度よりWEB登録開始。第2回栃木フットボールカンファレンス開催
71	2005	17	8	15	SOCER TOCHIGI	16		栃木トヨタカップ第10回栃木県サッカー選手権大会
72	2006	18	2	10	SOCER TOCHIGI	14		国体V3達成!
73	2006	18	8	1	SOCER TOCHIGI	18		県内初!人工芝サッカー場OPEN
74	2007	19	3	1	SOCER TOCHIGI	18		栃木県サッカー協会HP速報ページがついにOPEN!!
75	2007	19	11	20	SOCER TOCHIGI	16		連盟ホームページ開設中!!
76	2008	20	12	10	SOCER TOCHIGI	16		平成21年1月1日ホームページリニューアル
77	2010	22	2	10	SOCER TOCHIGI	16		栃木SC恋顧のリーグ昇格。日立UVASC・JFL昇格決定。ヴェルフェたかはら那須・関東リーグ2部優勝
78	2011	23	2	1	SOCER TOCHIGI	22		栃木県グリーンスタジアム J2基準のスタジアムへ!!
79	2011	23	11	1	SOCER TOCHIGI	20		女子ワールドカップなし世界一 安藤・鈴島両選手が地元凱旋
80	2012	24	3	19	SOCER TOCHIGI	28		栃木県グリーンスタジアム大型スクリーン登場!!
81	2012	24	10	15	SOCER TOCHIGI	26		オリオンズエアでパブリックビューイング（ロンドンオリンピック女子）
82	2013	25	3	25	SOCER TOCHIGI	38		平成25年度アクションプラン
83	2013	25	10	25	SOCER TOCHIGI	28		なでしこ関連ゲーム県内初開催!「なでしこリーグカップ」
84	2014	26	3	25	SOCER TOCHIGI	42		平成26年度アクションプラン
85	2014	26	10	25	SOCER TOCHIGI	38		第69回国民体育大会 関東ブロック大会
86	2015	27	3	28	SOCER TOCHIGI	38		2015年度アクションプラン
87	2015	27	10	26	SOCER TOCHIGI	38		栃木トヨタカップ第20回栃木県サッカー選手権大会
88	2016	28	3	25	SOCER TOCHIGI	38		2016年アクションプラン。栃木県サッカー協会エンブレム決定
89	2016	28	10	27	SOCER TOCHIGI	34		栃木トヨタカップ第21回栃木県サッカー選手権大会
90	2017	29	3	27	SOCER TOCHIGI	48		JFA「サッカーファミリータウンミーティング」田嶋幸三会長来県
91	2017	29	10	23	SOCER TOCHIGI	44		「フレナスなでしこリーグカップ」決勝トーナメント準決勝開催
92	2018	30	3	30	SOCER TOCHIGI	36		2017年度栃木県サッカー協会表彰式
93	2018	30	10	29	SOCER TOCHIGI	40		福井国体第73回大会サッカー競技成年男子5年ぶり本大会出場。
94	2019	31	3	25	SOCER TOCHIGI	44		2018年度栃木県サッカー協会表彰式。JFAレディースキャラバン。第40回皇后杯全日本女子選手権準々決勝、INAC神戸・鷲島凱旋
95	2019	1	10	31	SOCER TOCHIGI	40		栃木県グリーンスタジアム開催10,169人の観衆!! 第99回天皇杯全日本選手権大会3回戦
96	2020	2	3	31	SOCER TOCHIGI	48		第98回全国高校サッカー選手権大会・矢板中央高校ベスト4(第3位)。2019年栃木県サッカー協会表彰式
97 - 98	2021	3	3	31	SOCER TOCHIGI	56		「カンセキスタジアムともぎ」完成
99	2021	3	10	29	SOCER TOCHIGI	48		栃木県サッカー協会創立75周年記念兼新スタジアムこけら落とし

森山真弓先生を偲んで

最高顧問 石崎 忠利

森山先生が協会長に就任したのは、昭和62年5月である。その1か月後、国井理事長（当時）から「真弓先生が協会長としての記者会見をロイヤルホテルで行うことになったので、協会の現状と課題について説明して欲しい」との連絡があった。当日、資料を準備して早めに出かけたが、渋滞に巻き込まれ、予定より大幅に遅れてしまい、会見は中止となり、数時間後、ぶら下がりでの会見となってしまった。女性初ということで注目されただけに大失態であり、真弓先生というとまずこの苦い出来事を思い出す。

それから30数年、様々な立場から数々の御指導、御助言を頂きました。特に理事長として仕えていた頃は、日本サッカー界はワールドカップ誘致、プロサッカー設立など大きく動いていた時期でもあり、県協会もこれらの動きに乗り遅れないよう取り組んでいた時でもあった。さらに県協会では専用サッカー場の建設、平成5年栃木インターハイの開催なども抱えており課題が山積していた。

真弓先生は忙しい中、自治体への説明を始めとしてワールドカップでは誘致会議などに出席して宇都宮市をPRしたり、Jリーグチームの誘致では、本県に打診のあった数社の本社を訪問したりと、私達では働きかけに時間がかかる所を直ぐに対応して下さり、非常に心強いものであった。これらは残念ながら実現できませんでしたが、栃木県の子供達のためにグリーンスタジアム隣のキヤノン社に働きかけ、ジェフ市原のサッカースクールの開設やキヤノンカップの開催などに御尽力を頂きました。また広く知られておりませんが、ワールドカップ日韓大会の時には法務大臣の要職にあったのですが、フーリガン対策に対応、水際対策などを徹底して大会を成功に導き、日本協会幹部から真弓先生には大変感謝しているとお聞きしたことがあります。真弓先生は自慢しませんが、様々な立場でサッカー界のために大きな働きをしていたのだなとつくづく思っています。

女子サッカーの普及やグリーンスタジアムの改修などにも取り組んで頂きましたが、特筆すべきことは協会の法人化を推し進めたことではないか。真弓先生は協会が社会的信頼を高めるためには法人化が不可欠と考えていたようです。実務は星野理事長、吉江ならびに室井専務理事、また上野さんや坂本さん等が行っていたと思いますが、他の競技団体に先駆けて平成14年に社団法人にし、平成24年には公益社団法人を実現しました。

立場上、私は各種大会や会議の時など、真弓先生の隣の席に座って話をする機会が多くあった。少年の試合などでは「サッカーはいいわね」という何度も話されていた。秘書の星さんの話では、お元気だった頃、天皇杯や日本代表戦がある時はよく国

立競技場に出かけ楽しんでいたそうである。

真弓先生には「女性初」というのが多い。先頭に立って多くの困難を切り開きながら、今日の女性活躍社会につなげてきたと思う（真弓先生にとってはまだまだとんでもないとお叱りを受けるが）。そのような大きな存在の方と一緒に仕事をさせて頂き誇りに思っています。感謝に堪えません。「何をしているの、しっかりなさい」と笑われないように、これからも県協会、指導者の皆さんには頑張って欲しい。

森山真弓先生、長い間、本県サッカーの発展のために、旦那様の欽司先生とともに御尽力を頂きまして誠に有難うございました。心からの御冥福をお祈り致します。 合掌



平成5年2月 文部大臣就任祝賀会(ホテル丸治)



平成5年6月 栃木県グリーンスタジアムこけら落とし
(ジェフ市原vs鹿島アントラーズ)

森山会長、渡辺知事、川渕チアマンらが初蹴り



平成6年3月 国際親善試合祝賀パーティー
(アイルランド代表vs柏レイソル)

森山会長、ブラジル代表カレカ選手を囲んで記念撮影
(宇都宮グランドホテル)

2021年度 (公社) 栃木県サッカー協会賛助会員ご芳名 (敬称略) 2022年3月14日現在

奥澤 浩

円印刷株式会社

飯山 勝一

菅俣 倫吉



人と自然が調和した街づくりを目指す
鈴運メンテック株式会社



- 一般廃棄物の収集運搬
- 産業廃棄物の収集運搬
- 重機・一般貨物の運搬
- 倉庫の賃貸及び保管管理
- 高速道路の維持管理

〒320-0857
宇都宮市鶴田2丁目2番10号
TEL 028-648-6241(代)
FAX 028-648-8318
<http://www.suzuun.co.jp>

オフィシャルサプライヤー
ミズノ株式会社

- | | |
|---------|--------------------------|
| ■ 発行 | 公益社団法人 栃木県サッカー協会 |
| ■ 編集 | 公益社団法人 栃木県サッカー協会 記録広報委員会 |
| ■ 発行責任者 | 星野務 村上富士夫 |
| ■ 印刷所 | 円印刷株式会社 |